

5 高齢者と公民館

高齢者対象事業のあゆみ

(1) 高齢者事業の歴史

福生市公民館が実施する高齢者対象事業の一つに「寿市民広場」がある。3館合同事業ではあるものの、各館で特色ある講座をこの10年間行ってきた。もともと寿市民広場とは、市制20周年(1990(平成2)年度)を記念し、市民の創意による『ふるさと福生づくり』を基本目標として、人生80年といわれる世の中を迎え、高齢期を社会の一員(担い手)として、楽しく元気に生きられるまち福生を目指そうという想いのもと、集まったのが始まりである。

寿市民広場が発足する前の段階では、17名の運営委員を中心に幾度も会合を繰り返し、1981(昭和56)年6月24日に各館にて「語らいのひろば」が始まっている。当時は地域の情勢や実施条件などで単発になっていた年もあったが、試行錯誤を繰り返して現在のよう形に至っている。

また、福生市公民館の特色としては、寿市民広場では年間を通じて活動している自主サークルと常に共催で行っていることがあげられる。さらに寿市民広場の締めくくりとして「人生うたい語りのつどい」という発表の場を市民会館小ホールで行い、講座で学んだ成果、次世代へのメッセージ等を発表している。一般の市民にも来ていただき、学びの輪をさらにひろげている。

(2) 館ごとの状況

本館は前述した「語らいのひろば」で史跡や文化施設を巡ったり、福生市の行政について幅広く学んだり、健康に配慮した調理実習を行ったりと様々な活動を行ってきた。またその中で生まれた「若葉コーラス」で

は合唱を行っている。この10年間はこれら二つの事業で高齢者の絆づくり・居場所づくりを行ってきた。

松林分館では寿市民広場の一環として「さつきひろば」の名称で、高齢期を楽しく元気で生活できるような高齢者事業を行ってきた。しかし2005(平成17)年度よりさつきひろばはその名称のまま完全な自主活動をはじめ、それ以後はさつきひろばとは別に、木彫りのカモを作る講座や自分史を書く講座などを実施している。

白梅分館では「熟年ひろば」の名称で地域の活性化や現役意識を高める講座を実施してきた。また本館同様に合唱講座が派生して生まれ、「白梅シニア合唱教室」として人同士のつながりを重視してきた。さらに白梅分館では高齢者がパソコンやデジタルカメラなどの機器に触れ、若い世代との交流や時代を意識した講座を積極的に導入しているのも特色である。

(3) これからの課題

現在は、一口に高齢者といってもくくりきれないほど幅が広がっている。医療技術の進歩などにより人生80年を超えようという今の世の中で、60歳になったばかりの方と80歳を越えて人生

健康と仲間をつくらう (2006.10.19)

を謳歌している方を、同じ対象と見て講座を行うことは出来なくなっている。

2008 (平成 20) 年度より医療制度の面では後期高齢者医療制度がスタートしようとしているが、公民館としても高齢者事業を行うにあたり、前期・中期・後期とその対象の中で学びの目的や内容を

考えなくてはいけない時代に入っている。

前期の方は退職された後でどのように地域に溶け込んでいくかという課題があり、それをサポートするのが公民館の役割といえよう。また中期・高期の方は、自らの知識を若い世代に伝達して後継者育成を視野に入れた活動及びこれからをどのように過ごしていくかを考えていくことが重要であり、それらの視点からサポートしなくてはならないだろう。

この10年で高齢者を取り囲む状況は大きく変化してきている。これから先の10年は、今では思いもつかないような時代になっている可能性も大きい。しかし、公民館はどのような時代になっても高齢者を取り巻く状況を常に考慮し、時代に合った事業を展開しなくてはならない。

対談「寿市民広場を振り返って」

出席者 (敬称略)

永井 榊美

土居 満栄

聞き手 村社 竜一郎 (職員)

村社 本日はお時間をいただきありがとうございます。公民館30周年記念誌を作るにあたって、特にこの10年の寿市民広場について語っていただきたく、お集りをお願いしました。お二人には参加してみたいの想いや、展望をお聞きできればと思っております。

土居 私は60歳のときに入りましたのでもう15年になります。60歳のときに市から「寿市民広場に参加しませんか？」というお便りが来まして、それを見て参加しました。仕事があるので当時は休むばかりでほとんど参加できませんでした。そして

一時長い休みをいただいた後に平成4年にまた参加するんですけど、その時私は絵を習っていました。絵の先生が亡くなった後にその教室をやめ、こちらの童謡のひろばを休まないように参加してきました。やはり声を出す事は健康にいいといたしますね。友達も何人か紹介して今に至っています。

永井 最初に始まったのは語らいのひろばだったんですね。そしてその時に参加者の方が「歌を歌いましょう」とおっしゃいました。最初は語らいのひろばで歌を歌い始めたんです。そうしたら公

民館の職員だった松坂さんが「永井さん、こっちも歌を歌う会を作ろうか」と言ってくれたんです。その時は<若葉コーラス>ではなく、<人生歌おう会>という名前でした。当時は山下先生が指導していただきましたが、山下先生は白梅分館でも指導してまして、二つ掛け持ちが大変だったので小田切先生を紹介してくださったのが初期の流れです。

その頃の語らいのひろばは、史跡巡りといひまして市内の各所を巡りました。

私は福生に来て間もなかったのに、生き字引と言われ福生の事なら何を聞いても教えてくださる立川さんのもと、福生の史跡を案内してもらいました。もちろん歩きです。それが語らいのひろばの始まりで、それから様々な学びを行ってきました。

村社 当時は何名くらいいたのですか？

永井 語らいのひろばは昔40名近くいましたね。今は15名くらいです。童謡のひろばは多いときで40名くらいいます。ただ始まってから10数年を経て、亡くなった方がかなりいます。昔は若葉コーラスも併せてどこかへ出かける事になると市のバス1台では乗り切らず、補助席を常に使っていました。

土居 語らいのひろばはだんだん人数が減ってきてますね。悪い言い方すると新しく講座に参加した方が定着していない。今年も新しく加入した人は一人だけですし……。

永井 童謡のひろばが始まる前は、語らいのひろばの中で歌をやったり、先ほども名前を出した立川さんが在籍していたときは、「次はこれやりましょう、その次はあれやりましょう」と積極的にリードしてくれました。今は役員の方でも来れない人が多いんですよ。

土居 学びの内容も難しすぎると他の人がわかんなくなってしまうし、同じ事をやるとマンネリ化してしまうし……。難しいのもたまにはい

いけど、楽しくてまた来たいと思える活動をしていかないと。今いない私が言うのも失礼ですけど。ただ語らいのひろばに参加した方を引き止めるための策を考えるといいんじゃないでしょうか。今年は語らいのひろばに一人残りましたが、そういった方が毎年数名ずつ増えれば雰囲気も変わると思うんですよ。そのためにはやはり現在の参加者で引き止め策を考えないと。

永井 今は昔のように史跡巡りとかではなく部屋での学びが中心になってしまっているのも原因かもしれません。

土居 たまには気分を変えて外で活動してみても？ 市内の他の場所で語らいのひろばの参加者が他の活動に参加しているところをよく見かけます。せっかく語らいのひろばを通じてサークル山百合があるのだから、なくすのはもったいないですし、今いるメンバーや新しく参加するメンバーに残ってもらえる工夫をしないと……。

永井 語らいのひろばとして公民館が講座をやっているときは変化に富んで、みんな楽しめているんですけど、その後を考えなければいけませんね。

村社 新しく講座に参加された方がそのまま継続してサークル活動を続けてもらう努力は公民館側でも配慮しなくてはならないと感じています。

ここで話題を変えて人生うたい語りのつどいをお聞きします。今年は名曲コンサートと一緒に実施したんですけど、過去はどのような事をやられていたんですか？

土居 私が記憶にあるのは、市内公民館各館から何人かが壇上にあがって、それぞれの今までの人生を語り合うイベントが印象に残っています。

永井 前は歌だけでなく語らいの場があったんですよね。

土居 語り合うのもよかったですよね。あとはカラオケなんかもありましたね。

永井 その時は評判がよくなかったんです。「なんで人生うたい語りのつどいでカラオケなの？」って意見があって。

土居 それは知らなかった。私はずいぶん楽しかったんですけど。

永井 他にも落語や楽器演奏など様々な事を人生うたい語りのつどいで見てきました。特に自分たちの歌の発表でホールや舞台に立つ事はなかなか出来る事ではないので、毎年楽しくやらせてもらっています。

村社 寿市民広場に参加して一番よかったことを教えてください。

土居 いろいろな人と交流できることが一番かな。今でも仕事はしてますけど、やはり公民館で人と触れ合える事が一番です。

永井 みんな元気でいられる事ですね。参加し続けることで健康でいられる事があります。公民館があるからこそ私は元気でいられます。公民館に来てなかったら私は何もやる事がなくなってボケているかもしれない。公民館が私の生きがいです。

土居 公民館がある事はありがたいことだね。

永井 主人も亡くなってしまい、家にいたら誰ともしゃべる事ができないので、公民館がある事がホントにありがたいです。元気な限り通い続けたいです。

村社 ずっとお待ちしております。最後になります。が、寿市民広場における今後の公民館への要望があればおっしゃってください。

土居 舞台でより多くの人数と一緒に歌ってみたいという想いがあります。素敵な衣装を着て大人数で歌ってみたい。他のサークルの人と交流をしたりして。

村社 サークルの垣根を越えた競演ですね。

永井 サークル山百合も、今度、これからの話し合う場を設けて、みんなで案を出し合っただけでよりよくして続けていただければと思います。公民館には今まで公民館に来た事のない高齢者が足を運んでいただける講座を続けていただきたいです。私たち自身の課題は先程も述べましたが、新しく講座に参加された方の引き止め策です。

村社 今日はいろいろありがとうございました。10年後の40年誌のときもまたお話を伺えればと思います。

1997（平成9）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
寿市民ひろば 寿講演会・懇談会	10月～11月	3	120	都市景観について・市長と語るうわが街ふっさ	本館
寿市民ひろば 語らいの広場	9月～12月	10	300	私たちの人生の歩み・最近のわがまちの動向他	本館
若葉コーラス	9月～11月	10	450	人生を綴る懐かしい曲・思い出の曲・童謡・唱歌	本館
自分史を書く	10月～2月	6	102	実際に文章を書いてみよう	本館
寿市民ひろば さつきひろば	9月～12月	11	444	山野草の話・応急手当・若さを保つ体操他	松林
寿市民ひろば 熟年ひろば	9月～12月	12	384	昔、懐かしい歌を歌おう・茶道、太極拳講習会他	白梅
コール白梅	9月～12月	12	611	懐かしい曲・思い出の歌・歌唱・コーラス練習	白梅
人生うたい語りのつどい	11月	1	150	人生をうたおう・人生私の日課・舞踊（股旅）	合同
寿市民ひろば実行委員会	6月～11月	4	120	事業総括・事業活動概要・市長懇談会他	合同

1998（平成10）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
寿市民ひろば 寿講演会・懇談会	10月～11月	2	63	野生動物が住みにくい地球にしたのは誰だ他	本館
寿市民ひろば 語らいの広場	9月～12月	10	220	身の回りのゴミ減量を考えよう他	本館
若葉コーラス	9月～11月	10	430	人生を綴る懐かしい曲・思い出の曲・童謡・唱歌	本館
自分史	11月～2月	7	93	原稿を読む	本館
寿市民ひろば さつきひろば	9月～12月	11	444	ごみ問題・若さを保つ体操・古美術を語る他	松林
寿市民ひろば 熟年ひろば	9月～1月	11	287	若返り体操で元気に・介護保険制度他	白梅
コール白梅	10月～12月	10	557	懐かしい曲・思い出の歌・歌唱・コーラス練習	白梅
人生うたい語りのつどい	11月	1	180	人生をうたおう・人生私の意見発表・講演会	合同
寿市民ひろば実行委員会	7月～10月	3	63	事業総括・事業活動概要・市長懇談会他	合同

1999（平成11）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
寿市民ひろば 寿講演会	10月	1	110	天気と暮らし	本館
寿市民ひろば 語らいの広場	9月～12月	7	167	お茶を楽しもう・高齢者のための栄養学他	本館
若葉コーラス	9月～11月	7	269	人生を綴る懐かしい曲・思い出の曲・童謡・唱歌	本館
寿市民ひろば さつきひろば	9月～12月	10	380	介護保険・若さを保つ体操・悪質商法について他	松林
寿市民ひろば 熟年ひろば	9月～2月	7	199	ゴミの仕分け・体操で楽しく・介護保険について	白梅
コール白梅	10月～12月	7	408	懐かしい曲・思い出の歌・歌唱・コーラス練習	白梅
人生うたい語りのつどい	11月	1	178	人生をうたおう・演芸鑑賞（落語・講談）	合同
寿市民ひろば実行委員会	7月～11月	3	52	グループ活動交換・講演会の進行	合同

2000（平成12）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
寿市民ひろば 寿講演会	10月	1	45	事件と私	本館
若葉コーラス	9月～12月	7	245	人生を綴る懐かしい曲・思い出の曲・童謡・唱歌	本館
若葉コーラス 名曲コンサート	10月	1	75	世界の名曲 ピアノ、独唱	本館
寿市民ひろば さつきひろば	9月～12月	10	413	介護保険の現状と課題・ゴミ分別処理方法他	松林
寿市民ひろば 熟年ひろば	9月～1月	7	175	楽しい気功の話と実技・介護保険の現況他	白梅
コール白梅	10月～12月	7	408	懐かしい曲・思い出の歌・歌唱・コーラス練習	白梅
人生うたい語りのつどい	12月	1	158	人生をうたおう・童謡ウエスタンコンサート	合同
寿市民ひろば実行委員会	7月～11月	3	58	グループ活動交換・講演会の進行	合同

2001（平成13）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
寿市民ひろば 語らいの広場	9月～12月	7	180	火災予防・ゴミの有料化について考えてみよう他	本館
若葉コーラス	9月～12月	7	250	人生を綴る懐かしい曲・思い出の曲・童謡・唱歌	本館
高齢者パソコン教室	3月	5	95	ウィンドウズ98の基本操作	本館
寿市民ひろば さつきひろば	9月～12月	10	424	よりよい介護のあり方を求めて・ゴミ有料化他	松林
寿市民ひろば 熟年ひろば	9月～1月	8	208	人の寿命と健康体力や生きがいの関係他	白梅
コール白梅	9月～12月	8	360	懐かしい曲・思い出の歌・歌唱・コーラス練習	白梅
人生うたい語りのつどい	12月	1	180	人生うをうたおう・アトラクション・講演	合同
寿市民ひろば実行委員会	11月	1	12	グループ活動交換・講演会の進行	合同

2002（平成14）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
寿市民ひろば 語らいの広場	9月～12月	7	175	福生市の現状と課題・火災予防について他	本館
若葉コーラス	9月～11月	7	210	人生を綴る懐かしい曲・思い出の曲・童謡・唱歌	本館
若葉コーラス 名曲コンサート	10月	1	82	童謡・唱歌秋の歌メドレー	本館
寿講演会	10月	1	33	講演（生活習慣病）	本館
寿市民ひろば さつきひろば	9月～12月	10	465	市長との語らい・スポーツを楽しむ・ハイキング他	松林
寿市民ひろば 熟年ひろば	9月～1月	8	210	楽しい気功の話と実技・介護保険の現況他	白梅
コール白梅	9月～11月	7	315	懐かしい曲・思い出の歌・歌唱・コーラス練習	白梅
人生うたい語りのつどい	11月	1	165	人生をうたい語り・講演（健康秘話と環境落語）	合同
寿市民ひろば実行委員会	11月	1	12	グループ活動交換・講演会の進行	合同

2003（平成15）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
寿市民ひろば 語らいの広場	9月～12月	7	142	食と生活について・犯罪防止について他	本館
若葉コーラス	9月～11月	7	210	人生を綴る懐かしい曲・思い出の曲・童謡・唱歌	本館
若葉コーラス 名曲コンサート	9月	1	88	童謡・唱歌 オペラメドレー	本館
寿市民ひろば さつきひろば	9月～12月	10	344	暮らしと健康メモ・防犯と交通安全の話を聞く他	松林
寿市民ひろば 熟年ひろば	9月～1月	8	352	人生を健やかにそして豊かにするために	白梅
コール白梅（シルバーコーラス事業）	9月～11月	7	280	懐かしい曲・思い出の歌・歌唱・コーラス練習	白梅
人生うたい語りのつどい	11月	1	182	人生うたい語り・ふれ合い漫才	合同
寿市民ひろば実行委員会	8月～11月	3	35	グループ活動交換・活動進捗状況・つどいの準備	合同

2004（平成16）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
寿市民ひろば 語らいの広場	9月～12月	7	138	悪質な訪問販売を撃墜せよ・防災講和会	本館
若葉コーラス	9月～12月	7	212	人生を綴る懐かしい曲・思い出の曲・童謡・唱歌	本館
若葉コーラス 名曲コンサート	9月	1	88	童謡・唱歌 オペラメドレー	本館
寿市民ひろば さつきひろば	9月～12月	9	377	歩き方のトレーニング・野草や昆虫の自然観察	松林
自分史を書く（自分関係史）	1月～3月	7	46	今日の自分が形成された思い当たりを話し合い	松林
寿市民ひろば 熟年ひろば	9月～1月	8	360	高齢者の自覚と介護保険制度他	白梅
白梅シニア合唱教室	9月～11月	7	280	懐かしい曲・思い出の歌・歌唱・コーラス練習	白梅
人生うたい語りのつどい	11月	1	218	カントリーウエスタンとハワイアンをうたうほか	合同
寿市民ひろば実行委員会	8月～11月	3	35	グループ活動交換・活動進捗状況・つどいの準備	合同

2005（平成17）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
寿市民ひろば 語らいの広場	9月～12月	7	104	防犯学習会・食と健康の学習会他	本館
寿市民ひろば 童謡のひろば	11月～2月	8	160	人生うたい語りのつどい出演に向けての合唱練習	本館
寿市民ひろば 木彫りのカモを作ろう	5月～6月	6	41	カットされた木片にカモの図面を木に写し掘り出す	松林
寿市民ひろば 自分史（自分関係史）を書く	1月～3月	6	23	自分関係史の図を作成・構成要件の抽出、検討	松林
寿市民ひろば 生きがいと健康を作ろう	9月～12月	8	50	体調のチェックと健康維持体操・丘陵を歩く	松林
寿市民ひろば 熟年ひろば	9月～1月	9	315	福生市の防災計画を知る・戦中、戦後の暮らし	白梅
寿市民ひろば 白梅シニア合唱教室	9月～2月	7	280	懐かしい曲・思い出の歌・歌唱・コーラス練習	白梅
寿市民ひろば 戦争体験を語り継ぐ	6月～3月	3	80	私は終戦をここで迎えた・戦争体験を顧みる	白梅
人生うたい語りのつどい	2月	1	230	我ら語らいの歩み・うたと朗読の構成劇	合同
寿市民ひろば実行委員会	10月～1月	4	40	高齢者活動の構成と歩み・今年の企画構成	合同

2006（平成18）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
寿市民ひろば 語らいの広場	9月～11月	7	75	食の学習会・調理実習・介護予防学他	本館
寿市民ひろば 童謡のひろば	9月～12月	8	205	合唱練習	本館
寿市民ひろば 木彫りのカモを作ろう	6月～7月	8	89	カットされた木片にヤマガラ図面の図面を木に写し掘り出す	松林
寿市民ひろば 自分史を書く	1月～3月	6	23	自分史の経過を作図する・重要な項目を抽出・検討	松林
寿市民ひろば 生きがいと健康をつくろう	9月～12月	9	42	体調のチェックとスケジュール確認・丘陵を歩く他	松林
寿市民ひろば 熟年ひろば	11月～1月	4	138	くすりの話・懐かしい、思い出の曲を口ずさむ他	白梅
寿市民ひろば 白梅シニア合唱教室	9月～12月	8	290	懐かしい曲・思い出の歌・歌唱・コーラス練習	白梅
初心者デジタル画像編集講座	9月～2月	8	56	画像編集・文字入力・画像の合成・レイヤー他	白梅
人生うたい語りのつどい	12月	1	184	音楽のひろば・指先を使ってみよう	合同
寿市民ひろば実行委員会	9月～11月	4	5	高齢者事業、活動の交流、企画催し開催葉の準備	合同



塩津 昭次郎さん

6 障がい者と公民館

障がい者対象事業のあゆみ

福生市公民館での障がい者を対象とした事業は1985（昭和60）年6月に開設された「障害者青年学級にじのはらっば」（以下、「にじはら」という。）と「聴覚障害者のための映画会」である。

すでに公民館20周年記念誌において「障害者の事業が硬直化しつつあり一中略一現状に甘んじて障害者事業に対する新たな取り組みを見失い、危機感・目的を失い、ただ事業を継続していただくのマンネリ化傾向になりつつある状態」という総括がなされているが、30年を経過する中でも新たな取り組みはなされていない。

それでは公民館はただ前年踏襲の事業を漫然と実施してきたのであろうか。この間の福祉の流れを少し振り返っておこう。

1997（平成9）年12月に介護保険法が成立し、2000（平成12年）4月から制度が導入された。同年6月に「社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律」が成立、社会福祉事業法が社会福祉法に改名・改正、数本の法律が改正された。2003（平成15）年4月に支援費制度がスタートする。さらに2006（平成18）年4月から障害者自立支援法が段階的に施行され、支援費制度の大部分がそこに吸収された。行財政改革の流れの中で、福祉の視点が措置から契約へ、自己選択・自己決定・自己責任へと大きく変化した10年であると位置づけられる。

そのような中で、国際的な潮流は障がい者の人権を改めて確認する方向で動いている。2006（平成18）年12月に国連障害者の権利条約が採択された。これは世界人権宣言から女性差別撤廃条約、子どもの権利条約という流れの中に位置づくものである。1980（昭和55）年からの国連障害者の10年「完全参加と平等」から四分の一世紀

を経て、ここまで到達したことになる。

公民館は障がい者の学習権保障の視点からにじはらを開設し、にじはらを核に、障がい者だけでなく、だれもが暮らしやすいまちを目指し、①障がい者自身の学び ②親や家族の学び ③地域の多くの人々への学び を展開し、障がい者問題を広く市民の問題ととらえ事業を実施してきた。

地域共生講座、公民館のつどい分科会、ボランティア講座など対象は様々であるがその目指すものは同じである。

さて、1997（平成9）年度以降、にじはらは現在も継続して実施されているが、聴覚障害者のための映画会は2003（平成15）年度を最後に実施されていない。この事業は開設当初から手話サークル「福手の会」と連携し、福手の会の活動日である金曜日の夜間を中心に上映を継続してきた。

2002（平成14）年度に「字幕付映画上映会」と改称し、聴覚障がい者以外の方にも対象を広げていったが、参加者数の増加にはつながっていない。この背景にはDVDが普及する中で、聴覚障がい者が邦画を字幕付で見られる環境が整備されてきたことがあげられるだろう。またフィルム借用先の（福）聴力障害者情報文化センターでの新たな作品提供が見送られ、上映作品が底をついたという状況が上映継続を断念した経過である。

さらに福手の会や手話サークル「もみじ」が活動拠点を福祉センターに移す中で、聴覚障害者と公民館の日常的なつながりが薄れてきたことが影響しているのかもしれない。

今後の障がい者対象事業であるが、にじはらの継続を基本にしつつ、障がい者と健常者の出会い、交流の場を積極的に展開する必要があるだろう。

本館まつり、公民館のつどいなど既存の事業のほか、障がい者に関わる機関、団体、サークル等との連携を深め、相互に啓発しながら、障がい者のみならず多くの市民が暮らしやすいまちづくりのための学習を展開していく必要がある。

また障がい者の学習・文化活動を支えていくために、公民館サークルが果たす役割は大きいと考える。ともすると、障がい者という対象で枠を

はめてしまいがちであるが、共に暮らす市民として、障がいのあるなしに関わらず、広く市民の学習要求を満たし、支えていく担い手としてサークルそしてそのメンバー一人ひとりの力が必要であろう。そしてそれを公民館としてどう支えていくのが課題である。

公民館は何をしなければならないか、何ができるのかを考える時期ではなかろうか。

にじはらの10年

10年間を振り返る前に、押さえておかなければならないことは、職員、講師体制の変化である。1994（平成6年）4月、にじはらの立ち上げから10年間関わってきた男性職員の高橋が異動し、交代で配属された佐藤が開級当初からの女性担当職員名取とともに担うこととなる。翌年には、それまでにじはらを支えていた講師陣（現在の特別支援学級教諭、社会福祉法人職員）が相次いで学級を離れることとなった。そして1996（平成8）年4月には、名取が異動となり、前年に新規採用で公民館に配属された女性職員国本が佐藤とともににじはらを担当する。

それ以後の変遷については別表に記載した。2004（平成16）年度には高橋の後を継いで10年間担当した佐藤が公民館から異動している。

にじはらは年間を通しての活動であり、23年間継続してきた事業である。参加者（以下、「学級生」という。）個々の障がいの状況と対応も個別であるがゆえに職員との関係もより密接にならざるを得ない。そのような中で、公民館職員の異動はもとより、特に女性担当職員が目まぐるし

く替わり、2006（平成18）年4月からは開設以来、男性・女性職員で担当していたにじはらの体制が維持できなくなった。にじはらの運営を考える時、車イスを必要とする女性の学級生も4人おり、その介助に女性職員がいないことはかなりの痛手となっている。

講師主体の学級活動から学級生主体の活動へ

にじはら開設当初は、学級活動を定着させ、軌道にのせていくために講師やボランティア主体による学級運営であった。しかし、1988（昭和63）年度に学級生が主体となり活動を展開していくために「学級生運営委員会」を組織し、その後、1998（平成10）年度までの11年間にわたり、この学級生運営委員会がにじはら活動の一翼を担ってきた。

「学級生企画」とは、プログラムの企画、外出が必要な場合の現地踏査、通知作成と発送事務、当日の運営など、プログラムに関するすべてについて、学級生運営委員会を中心に行っていくものである。そのために学級の活動中だけでなく、活動終了後や、活動日以外にも集まりを重ね、準備を進めている。学級生一人ひとりが

安全に楽しく過ごせるかの確認（例えば車椅子トイレが行程の中にあるのか、移動の際に不都合や危険な場所がない

年度	H9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
男性	佐藤	→	→	→	→	→	→	中根	→	→
女性	国本	→	村田	→	→	阿由葉	宮脇	→	→	/
男性							和田	→	/	石川

か、その対策等)など学級生運営委員みんなで知恵を出し合い、準備を進めていく中で、様々なことを学び、協力してやり遂げる達成感、充実感、自信を得ていくプログラムとなっている。

学級生運営委員会の消滅と

新たな学級生主体、地域への活動の模索
「学級生運営委員会」による「学級生企画」のプログラムも、1999(平成11)年度の学級活動からその姿を消した。学級生・スタッフ・元講師・事務局で話し合った結果だが、この背景にはいくつかの理由がある。

「運営委員の固定化」による活動のマンネリ化が生じていたこと。準備にかかわる運営委員の身体的な負担が大きいこと。さらに「プログラムの企画・運営に対する負担」があげらる。

また学級生企画を支えるスタッフ・ボランティアの就職・結婚・転出などの状況の変化により、学級生企画の準備に安定して関われなくなった時期と重なったこと、開設当初より学級活動に携わってきた講師の方々が揃って引退した状況などがあり、学級生企画・運営に対するエネルギーが消えかかっていた。

このような状況の中、「学級生企画」は消滅したが、学級生・スタッフ・ボランティアの想いは、何か違った形で学級生の主体的な関わり方を学級プログラムに反映できないかという声となり、1999年度のプログラムから、学級生が関わりたいプログラムにスタッフ・ボランティアと共に企画・運営に参加し、共に学級をつくりあげていくことになった。身体的にも精神的にもそれまでの学級生企画に比べると負担もそれほど重くはなく、学級生・スタッフ・ボランティアがみんなで学級運営をしていくことになった。年間の学級活動のキーワードを主体性、積極性を持ち、学級をつくっていくという意味で『一人ひとりの主体性から生まれるにじの輪～これぞ輝くにじはらだ!～』

とし、全員で確認し合った。開設当初からの講師陣がいなくなった中、自分達一人ひとりが主役となり、主体的ににじはらを

つくり、運営していく意識が芽生えた時期である。

さらに、活動の範囲も、学級内から地域へ広げられることを考えたプログラムを企画・実施していった。

具体的には、地域に積極的に活動をPRしていく機会として、福生駅のプチギャラリーで行った「にじはら展」(1998(平成10)年度)、市民の一人として市の行事に参加する「福生七夕まつり民踊パレードへの参加」(1999年度から)、「竹飾りへの参加」(2003(平成15)年度から)、自分達の活動を展示するだけでなく違った形での「市民文化祭演示への参加」(1999年度)、自分が人に何かをしてもらうだけでなく市民と積極的に交流し、“してもらう”から“してあげる”という主体的な意識のもとで行った「市内高齢者施設への訪問」(2003(平成15)年度)、自分達の生活する地域をあらためて見直し、地域に出かけていく機会、まちをきれいにする一つの方法として「市内再発見・ゴミ拾い(ウォーキング)」(2003(平成15)年度から、後ににじはらエコ・ウォークと改称)などを行った。また、本館まつりの見学を通し、公民館サークルと出会いを深め(2006(平成18)年度)、雨天のため参加を取りやめたが、軽スポーツ&とん汁会など地域の行事に積極的に参加し、活動を広げていくことに取り組んできた。

このように、活動プログラムの企画・運営の形態は、講師・スタッフ・ボランティア主導によるものから、「学級生運営委員会」を中心とした「学



2004年度 20周年記念誌を発行

級生企画」を中心としたものへと移行し、さらに学級生・スタッフ・ボランティアみんなが積極的に主体的な意識を持ち、学級に関わる全員による企画・運営を行い、自分達の住む地域とも関わりを持てる形態へと変化してきた。

四市交流事業

にじはらの年間活動には、近隣の自治体の青年学級との交流を図る趣旨の「四市青年学級交流事業」を組み込んで実施している。

この事業は、福生市、あきる野市、青梅市、羽村市の四市が合同で、毎年、各市青年学級がプログラムを受け持ち、企画・運営を行っている。四市の担当者会議を開催し、プログラムの内容・運営について意見交換を行っている。1998（平成10）年度の担当者会議の場で、従来の「固定プログラム担当制」から、各プログラムを順番に受け持ち、地域性、独自性を育むために「プログラム交代制」が提案され、翌年度から実施されることになった。

このことにより、各市がそれぞれ4事業（弁論大会、スポーツ大会、ハイキング、新規企画）を毎年順番に実施することになった。4年ごとに様々な事業を企画・実施することで、各市青年学級にとって、様々な地域での新たな発見や学び、また他市青年学級の運営から刺激を得て、にじはらのプログラムに生かすことができるなど、四市交流事業の新たな出発にあたる転換期となりました。

しかし、2006（平成18）年度に向けた担当者会議の席で、年間4回の交流事業は自分達のプログラムを拘束する度合いが高い、という意見が出され、回数を3回に減らすことになった。

市を超えた交流を目指した四市交流ではあるが、プログラムの形態によってはなかなか交流が思うようにいかないのが現実である。

にじの会

「にじの会」とは、にじはらの学級生、保護者、講師、スタッフ、職員で組織され、にじはらの活動を支える会として、学級開設当初からその役割を果たしてきた。

しかし、「にじの会」の機能が十分に発揮されていない状況や様々な事情から、「にじの会」の会員や関係者から組織の在り方について見直しの意見が出された。

2000（平成12）年度、にじのはらっば参加者のご家族、関係者と話し合いの上で、「にじの会」を休止し、代わって事務局が「にじの会」に代わる役割を担うことになった。

公民館事務局による行事等の連絡会や親睦会、学級活動へのご家族の方への積極的な関わりをしていただくための呼びかけが、2年間の試行期間から見ても十分に行われてきており、「にじの会」に代わり事務局が十分にその役割を果たすことが可能であるとの意見が一致し、2001（平成13）年度をもって、解散された。

「にじの会」という名称は残し、事務局による上記の内容を行う際には「にじの会」の活動として展開されている。

最後に、にじはらの学級生、スタッフ・ボランティアの状況について触れておく。

学級生の状況

にじはらは1985（昭和60）年6月、20名（男性10名、女性10名）の学級生ではじまった。2006（平成18）年度の学級生は28名（男性19名、女性9名）である。

2006年度現在、にじはらに参加している（していた）学級生はこの22年間で52人である。開設初年度から継続して参加されている方が7名（途中の出入りは無視し、現在も参加している方）、10年以上参加され現在も参加されている方が20名（途中の休級期間を除く。開設初年度か

ら参加している方を含む)となる。平成18年度学級生の平均在籍年数は14.5年、しかも71.4%の方が10年選手ということである。

開設当初の平均年齢は18.1歳であるが、平成18年4月1日現在33.9歳、開設当初16名だった10歳代が、現在では1名である。これは募集対象から養護学校高等部在籍者はずしたためと思われるが、それにしても、現在の年齢構成は10歳代1名、20歳代4名、30歳代15名、40歳代7名、50歳代1名という状況である。「障害者青年学級は卒業がない」と言われていることがこのことからわかる。

1997(平成9)年度以降、10年間の新規参加学級生は11名(うち養護学校卒業を契機に参加された方は4名)である。この数字は福生市の知的障害者の状況を考えると非常に少ないと思われる。

にじはら開設年度(昭和60年度)の愛の手帳所持者は88名であるが、2006(平成18)年度では約2.5倍の207名である。にじはら参加者数との間に乖離がみられる。この数字では年齢層は読み取ることができないが、3年ごとの市勢統計に18歳未満、18歳以上の年齢区分での統計がある。(別表参照)2003(平成15)年度は18歳以上の方が139名、それを2004年度ににじはらに参加されている27名(にじはら学級生の年齢は4月1日現在のため)との割合を求めると19.4%である。ちなみに平成3年度(にじは

福生市の知的障害者(18歳以上)とにじはら参加率

年度	H3	6	9	12	15
18歳以上(人)	84	98	117	120	139
学級生数(人)	24	25	24	25	27
参加率(%)	28.6	25.5	20.5	20.8	19.4

18歳以上の数字は市勢統計から(各年度3月31日)

市勢統計と比較するため、学級生数は当該翌年の数字

らでは4年度=以下同じ)は28.6%、平成6年度は25.5%と年々その割合は減少している。

卒業も少ないが、新規参加者も少ないにじはらの現状が浮かび上がってくる。

スタッフ・ボランティアの状況

職員の状況については冒頭に触れた。女性職員の異動がひんぱんな中で、男性職員はそれぞれ10年間ずつにじはらを担当してきた。

にじはらの運営にとってスタッフ・ボランティアは欠くことのできない存在である。ここでいうスタッフとはにじはらボランティアを一定期間経験し、にじはらの運営に主体的にかかわっていただく方をいい、わずかではあるが謝礼をお支払いしている。

開設当初から、にじはらのねらいとしてスタッフ・ボランティアは単に学級生の介助をするにとどまらず、同世代の青年としてともに啓発しあい、成長しあう存在として意識されてきた。そして、活動を通して障害者理解、地域社会への関心を高めていくことがねらいとされてきた。

下の表はスタッフ・ボランティア数の推移である。実際にこの方々が毎回の活動に参加できるものではない。であるからこそ、一定程度の人数が必要であり、新たなボランティアの参加を求め、さらに継続してにじはらに関わるような関係作りを職員、スタッフ・ボランティア、そして学級生とのかかわりを通して築いていかねばならない。そして、ボランティアがスタッフとして成長していけるような学習機会を絶えず設定していかなければならないと痛感している。

スタッフ・ボランティア人数の推移

年度	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
スタッフ	13	10	11	11	12	15	14	13	11	12
ボランティア	23	24	18	19	17	14	16	21	12	16
合計(人)	36	34	29	30	29	29	30	34	23	28

*16年度まではにじはら20周年記念誌から

*17、18年度は出席回数ゼロの方、体験!夏ボラのみの方は割愛している

*16年度の実際はスタッフ9名、ボラ16名、計25名

いつまでも『にじのはらっぱ』と共に

小沼 智美

私が『にじのはらっぱ』に出会ったのは、大学に入学したばかりの頃でした。学校の掲示板上に貼られていたボランティア募集のポスターが気になって、公民館に電話をしたのがきっかけでした。

初めての活動の日、少し緊張しながら公民館を訪れると、学級生、スタッフ、ボランティア、職員みんなが明るく優しく迎えてくれたことを今でも覚えています。

あれからもうすぐ8年が経とうとしています。今も私はこの『にじのはらっぱ』に参加し続けています。そういえば、こんなに長くひとつのことに夢中になれたことは、これまでの私の人生には無かったような気がします。そして特別趣味を持っていなかった私が、最近では『趣味：にじのはらっぱ』と言えるようになりました（笑）。そのくらい、熱い思い

を持って参加しているのだと言えるかもしれません。

とは言っても、特に何かを頑張っているわけではなく、ただ毎回活動に参加して、学級生やスタッフ仲間と一緒にいるだけ、一緒に活動を楽しんでいるだけです。確かに初めの頃は意気込んで「ボランティアは何かしなければ！」という気持ちを持っていました。しかし、一緒に活動していると、私の方が学級生に助けられ、励まされ、いつも笑顔と元気をもらっています。学級生、スタッフということはあまり意識せず、休日に公民館で会い、一緒にどこかへ行ったり何かをしたり、ごはんを食べたり、笑ってしゃべって楽しく過ごす、友達のような関係です。『にじのはらっぱ』は私にとって居心地の良い場所となりました。

最近では学級生の悩みを聞くこともあります。家庭のこと、仕事のこと、健康のこと……。年を重ねるにつれ、深刻な悩みも増えていくように感じます。しかし、たとえそれぞれが悩みを抱えていたとしても、学級生のほとんどは『にじのはらっぱ』の活動を毎回楽しみにしてくれているようで、とても嬉しく思います。学級生にとっても『にじのはらっぱ』は息抜き場、居心地の良い場所になればいいなぁと願っています。

『にじのはらっぱ』のメンバーは、学級生、スタッフ共に年齢層も様々、性格も様々、何よりも魅力的な人が多いのが自慢です。そして活動では毎回新たな発見があり、新たな優しさにふれ、新たな感動を覚え、新たな魅力を見つけ……。とにかく何でも新鮮に感じることができます。それが、私が『にじのはらっぱ』に参加し続けている理由の一つです。これからも、この素敵なメンバーといつまでも一緒に歩いていけたらいいなぁと思っています。

1997（平成9）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
障害者青年学級「にじのはらっぱ」	5月～3月	21	483	知的障害のある青年の学習と仲間作りの場として実施	本館
聴覚障害者のための映画会	6月20日	1	11	渋滞	本館
	8月29日	1	14	となりのトトロ	
	10月17日	1	11	里見八犬伝	
	12月12日	1	8	四十七人の刺客	
	2月13日	1	9	銀河鉄道の夜	

1998（平成10）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
障害者青年学級「にじのはらっぱ」	5月～3月	22	528	知的障害のある青年の学習と仲間作りの場として実施	本館
聴覚障害者のための映画会	5月22日、23日	2	13	スーパーの女	本館
	7月17日	1	4	シコふんじゃった	
	9月11日、12日	2	21	学校の階段2	
	11月20日、21日	2	5	用心棒	
	1月29日、30日	2	14	免許がない！	

1999（平成11）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
障害者青年学級「にじのはらっぱ」	5月～3月	22	550	知的障害のある青年の学習と仲間作りの場として実施	本館
聴覚障害者のための映画会	6月18日、19日	2	18	ラヂオの時間	本館
	8月11日、12日	2	7	火垂るの墓	
	10月23日	1	13	東京日和	
	1月28日、29日	2	19	天国と地獄	
	3月26日	1	5	絆一きずな一	

2000（平成12）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
障害者青年学級「にじのはらっぱ」	5月～3月	21	546	知的障害のある青年の学習と仲間作りの場として実施	本館
聴覚障害者のための映画会	4月21日、22日	2	18	卓球温泉	本館
	6月23日、24日	2	17	誘拐	
	8月25日、26日	2	16	GAMA 月桃の花	
	9月22日、23日	2	12	いのち・ぼうにふるう	
	12月15日	1	10	恋文	

2001（平成13）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
障害者青年学級「にじのはらっぱ」	5月～3月	20	500	知的障害のある青年の学習と仲間作りの場として実施	本館
聴覚障害者のための映画会	6月29日	1	10	祝辞	本館
	8月24日	1	4	はぐれ刑事純情派	
	10月26日	1	5	魚影の群れ	
	12月14日	1	6	青春の門筑豊編	
	2月22日	1	3	スケバン刑事	

2002（平成14）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
障害者青年学級「にじのはらっぱ」	5月～3月	21	588	知的障害のある青年の学習と仲間作りの場として実施	本館
字幕付映画上映会	4月19日	1	3	大病人	本館
	6月14日	1	4	典子は今	
	8月16日、18日	2	21	きけ、わだつみの声	

字幕付映画上映会	10月27日	1	8	宮本武蔵 巖流島の決闘	本館
	2月23日	1	13	水戸黄門	

2003（平成15）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
障害者青年学級「にじのはらっぱ」	5月～3月	20	560	知的障害のある青年の学習と仲間作りの場として実施	本館
字幕付映画上映会	7月11日	2	32	夢千代日記	本館
	11月24日	2		僕らの7日間戦争2	
	3月28日	2		ベトナムのダーちゃん	

2004（平成16）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
障害者青年学級「にじのはらっぱ」	5月～3月	22	594	知的障害のある青年の学習と仲間作りの場として実施	本館

2005（平成17）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
障害者青年学級「にじのはらっぱ」	5月～3月	22	594	知的障害のある青年の学習と仲間作りの場として実施	本館

2006（平成18）年度

講座名	実施期間	回数	人数	内容	主催
障害者青年学級「にじのはらっぱ」	5月～3月	22	464	知的障害のある青年の学習と仲間作りの場として実施	本館

2006年度の人数が少ないのは、延べ人数の取り方の変更による



鴨 美江子さん

7 公民館のまつり

1 本館まつり

福生市には本館、松林分館、白梅分館と三館の公民館がある。現在ではこの三館ともいわゆる公民館まつりが開催されているが、本館においてはその歴史は浅い。本館では、「ふっさ公民館を創る市民の会」のメンバーが中心となり、公民館利用者懇談会が組織され、1979年「公民館利用者大会」が開催された。しかし1980年半ばに利用者懇談会が活動を休止し、第2回利用者大会は開催されなかった。利用懇がなくなり利用者間の横のつながりが薄れていくことに危機感を感じ、職員の側から「公民館のつどい」が企画され準備会を経て開催された。第1回目は音楽サークルの発表、作品の展示や模擬店が開かれるなど公民館まつりの色彩が強かった。第1回から5回目までは「学習」と「交流」など様々なものが取り入れられたものであったが、しだいに「つどい」はサークル間の交流を目的としたまつりの要素がなくなり交流会から学習の色彩がこくなっていった。

1997年公民館会館20周年記念事業として、第16回公民館のつどいと同時開催という形で屋外交流会が開催された。公民館利用者の交流を目的に演示、展示、模擬店が開かれた。この記念事業では公民館利用サークルが中心となって企画運営が行われた。

本館では市民文化祭や市民音楽祭などサークルの活動を発表する場があるが、公民館活動の中から自らの成果を発表したい、

サークル内だけでなく他の人とも交流したいという機運が高まり、利用者連絡会役員会のなかで「本館まつり」実施にむけた検討が行われるようになる。1999年6月の本館利用者連絡会において本館まつり実施が確認され9月に第1回本館まつりが開催された。

本館まつりが実施されたことで、サークルをこえた交流の場である「まつり」とサークルが中心となった学習会である「つどい」というようにそのあり方が明確となった。また、まつりへの参加によってサークル活動が活性化するとともに、市民同士の交流が深まっていく。まつりを通してサークル間や職員との相互理解や協調が生まれ、公民館活動の実践が地域へと広まっていく。本館まつりが継続して開催されていくことで、地域や市全体の文化を高め創り出していく契機となるであろう。

2 松林だれでもなんでも展

(1) だれでもなんでも展の経緯

1980（昭和55）年利用者交流会にて職員側から次の点が提案された。①地域の手づくりの文化を育てるために ②サークルやグループの活動の発表の場として ③出会いふれあいの場をめざし

④公民館の活動を出来るだけ地域の人々に知ってもらうため、そして何よりも皆で一つのものを作り出す経験を共有しながら、地域に働きかけていく力を利用者が持つ。そのネーミングも松林のサークルやグループで活動している人が地域でこつこつ作ってきたものや、なかなか発表の機会が無い方には是非お誘いしたら？とだれもが、気軽に参加できるよう「だれでもなんでも展」と名づけられたと、松林分館20周年記念誌の中で書かれている。

(2) 1997（平成9）年から

2006（平成18）年まで

その後「だれでもなんでも展」は回を重ねる中で「1 地域でこつこつと行なわれている文化的な営みを掘り起し、繋げていく。2 その役割を松林分館の利用者と地域の人々が担っていくこと。3 サークル、グループの活動や松林分館の活動を地域に広げていくこと。」とまとめています。

単なる利用者の発表会とは違い、地域で行なわれている地道な文化的な営みを掘り起す作業と自分たちの行っているサークル活動の中身を伝え合うという相互の関係から、活動が地域に広がって

いき地域の目に触れにくい活動を引き上げ、横に繋げていく位置づけを実行委員会で確認しながら、毎年開催してきた。テーマ、呼びかけ文、ポスターは毎回実行委員会で深く論議されている。テーマ一覧は別表の通りである。

ここ数年は、呼びかけ文の意義を検討し、テーマだけに絞って行なわれている。

ポスター、チラシも当初は手づくりだったが、最近はパソコンを活用したもので作られている。

実行委員会を開催し、その中で実行委員長1名、副実行委員2名を選出し、中心になって委員会が進んでいく。実行委員も毎年一般募集し、個人参加者を募っている。当日の展示や演示参加だけでなく、企画、運営に関わることは、住民自身の手によって、文化の民主制と主体性を回復し、民主的な行動能力や自治的能力を創り出す場になっていくことを期待している。

最近の参加数は初回に比べると、減少している。2003年度の延べ参加人数1,832名を頂点に翌年は431名と激減したが、これは人数カウントの

年度	テーマ
1997（平成9）年度	第17回 ひろげよう、つなげよう 手づくりのよろこび
1998（平成10）年度	第18回 地域のWA サークルのWA 手づくりのWA
1999（平成11）年度	第19回 創りあげる喜び・ささえあえるよろこび・わかちあえる喜び
2000（平成12）年度	第20回 ひろげよう、つなげよう つくるよろこび
2001（平成13）年度	第21回 来て 見て 楽しく なんでも展
2002（平成14）年度	第22回 みんな集まれ、なんでも展。広げて行こう人の輪を
2003（平成15）年度	第23回 なんでも展心をつなぐ小さな活動
2004（平成16）年度	第24回 なんでも展 たのしさ かんどう ぬくもりを
2005（平成17）年度	第25回 なんでも展 みんなでつくる 小さな文化
2006（平成18）年度	第26回 さあ行こう！みんな一緒に松林へ

方法が変わったものと思われる。多くの実行委員が同じ仕事を担うので、実行委員会で改めて、役員の役割や方法、役員の目印などを検討した。役員の目印（名札）をつけることは、なんでも展に

来た方が、誰に声をかければいいのか、実行委員はどこにいるのかがハッキリする。こうして、実行委員会が新しい試みを取り入れ、なんでも展にフラッと遊びに来た方が公民館松林分館を知って、見て、体感してもらう良いきっかけとなっていった。作品だけが館で披露され、本人が関わらずにいた時代と比較すると、なんでも展の創設に掲げた「相互関係」「地域」「広がり」をもっとも近い状況で展開されてきている。

都市化とともに核家族が増え、地域社会のつながりが薄れてきたことを踏まえ、だれもが気軽に参加できる集まりを続けていきたい。

3 白梅まつり

白梅分館開館1年後の1981(昭和56)年、職員、利用者もようやく落ち着き、利用者交流会において、参加者の一人が「白梅分館で活動している人が発表できる場を設けたらどうか」という発言が契機となり、11回の集まりをもって翌年5月に「白梅会館利用者発表会」(現：白梅まつり)が開催された。

発表会の主旨は次のとおりである。

- ①日頃の各サークル活動の成果の発表の機会とする
- ②個々のサークルが同一目標に向かって活動することにより、交流・親睦を深める機会とする
- ③利用者発表会の準備から当日までの過程を通して、人と人との出会いを広げる
- ④熊川地域の市民の生活・文化創造の”ひろば”になっていくようにする

白梅まつりの特徴としてあげられる

のは、語らい茶屋（トークサロン）と称する話し合いの場が継続的に設定されていることである。これは熟年ひろばのメンバーが中心となり運営を担い、利用者間の交流はもとより、地域に生活する市民に広く呼びかけ、話しあう機会としている。

企画や運営についても、展示や演示などの発表をするサークルだけでなく、駐輪場整理等の裏方も含めてすべての利用サークルが役割を担えるように工夫をしている。

公民館と私—まつりをとおして—

清水 特行

“だれでもなんでも展”とは、なんと特徴のある親しみやすい名称でしょう。祭囃子の面や笛を見よう見まねで趣味として作っていた私は、その名の示す気安さから、昭和62年の第8回から11年続けて参加しました。平成5年には展示作品の獅子頭を用いて獅子舞で演示にも参加しました。ここで多くの人々に出会い、参加することの喜びを知りました。この経験から平成3年に福生市民文化祭展示の部への参加がはじまり、現在も続けて参加しています。

平成11年にひょっとこ踊りの「福生ひょっとこひょうたん連」を公民館本館の登録団体とし、活動をはじめました。翌年の平成12年春のふっさ桜まつりに「ひょっとこひょうたん連パレード」をし、以後、毎年参加し続けています。この催し物に参加することにより、いくつもの団体や地域の多くの人々に出会い、つながりを持ち、協力し合って、喜びをともに分かち合うことができるようになりました。

平成13年には公民館講師派遣事業として瑞穂ひょっとこ連の尾作映江氏を講師に「ひょっとこ踊り教室」が開かれました。

現在では、公民館本館で「福生ひょっとこ連」として活動をしています。ふっさ桜まつり、本館まつり、市民文化祭をはじめ各種老人介護施設の慰問、町内会の夏祭り、瑞穂サマーフェスティバルや産業まつり等に参加しています。

公民館でのひょっとこ踊りの活動が、「まつり」という地域の催し物への参加となり、そこから多くの人々との出会いが生まれています。私たちの活動は、地域の人々の理解と協力があって支えられていることを実感しています。

平成16年の第6回本館まつりから、まつりの最後のエンディングで、福生に伝わる木遣りが唱和されるようになりました。木遣りは、福生やその近辺では、祭礼の山車を曳くときに、ほんのわずかな地域で聞くことができるくらいです。本館まつりで、この木遣りを唱和した方々が、それぞれの地域の催し物や祝い事の席で歌い、その地域に伝えていくことができたら素晴らしいことではないでしょうか。

ひょっとこ踊りが真に地域に根ざし、多くの人々のものとなるよう、公民館での活動を通して努力してまいりたいと思います。

公民館では、多くのサークルのたくさんの方々が、様々な事柄の学習に取り組み、「公民館のつどい」では、いろいろな意見を聞き、いろいろな知識を学ぶことができます。「つどい」に参加することにより、自分の物の見方や考え方を深めたり、広げたりすることができました。「つどい」終了後はいつも充実した気持ちで公民館の会場を後にすることができます。

私にとって公民館は、地域の人々と私を結んでくれる太いパイプの役割をしてくれています。公民館での活動が地域の多くの人々との出会いを生み、この出会いが新たなつながりとなり、ともに喜びを分かち合うことができます。そして、このことが更なる活動の励みとなっています。今では、公民館での活動が私の生活の中で大切な部分となっています。多くの人々に支えられて公民館で活動できますことに感謝しています。

1997(平成9)年度

講座名	実施期間	人数	内容	主催
第17回 だれでもな んでも展	10月25日	1491	展示：絵画、陶芸、写真、七宝焼、水彩画 演示：映画、マジック 喫茶コーナー	松林
	10月26日		展示：絵画、陶芸、写真、七宝焼、水彩画 演示：映画、マジック、大正琴、新舞踊、剣詩舞、コーラス 喫茶コーナー	
第16回 白梅まつり	5月24日	450	展示のひろば：生花、陶芸、手描き染め、書道、子ども絵画、山歩きの会、 野草観察会、木彫、レザークラフト、ヨガの会、パッチワーク お茶席 模擬店 作ってあそぶ	白梅
	5月25日		展示のひろば：生花、陶芸、手描き染め、書道、子ども絵画、山歩きの会、 野草観察会、木彫、レザークラフト、ヨガの会、パッチワーク 演示のひろば：民謡、民謡、詩吟、三味線、大正琴、コーラス、社交ダン ス 語らい茶屋 模擬店 バザー	

1998(平成10)年度

講座名	実施期間	人数	内容	主催
第18回 だれでもな んでも展	10月24日	1447	展示：木工作品、絵画、陶芸、写真、七宝焼、造花、水彩画、水墨画、絵 手紙 演示：映画、マジック 喫茶コーナー	松林
	10月25日		展示：木工作品、絵画、陶芸、写真、七宝焼、造花、水彩画、水墨画、絵 手紙 演示：映画、マジック、大正琴、剣詩舞、コーラス 喫茶コーナー	
第17回 白梅まつり	5月23日	500	展示のひろば：生花、陶芸、手描き染め、書道、子ども絵画、山歩きの会、 野草観察会、木彫、水墨画、藤細工、手芸、ヨガポーズ 模擬店 アニメ映画会 人形劇	白梅
	5月24日		展示のひろば：生花、陶芸、手描き染め、書道、子ども絵画、山歩きの会、 野草観察会、木彫、水墨画、藤細工、手芸、ヨガポーズ 演示のひろば：民謡、詩吟、大正琴、コーラス、社交ダンス、太極拳 語らい茶屋 影絵劇 お茶席 模擬店 バザー	

1999(平成11)年

講座名	実施期間	人数	内容	主催
第1回 本館まつり 「ぱーっとい こうよ・お 好み祭り」	9月11日	888	演示部門：オカリナ、股旅舞踊、児童合唱、草笛 展示部門：パッチワーク、ステンドグラス、生花、篆刻、書道、絵手紙、 デコパージュ、サークル活動PR、マスコット作り体験、絵手紙体験 模擬店部門 子ども映画会	本館
	9月12日		演示部門：草笛、コーラス、社交フラダンス、フラダンス、コーラス、股 旅舞踊、ジャズダンス、カラオケ 展示部門 模擬店部門 子ども映画会	
第19回 だれでもな んでも展	10月23日	1154	展示：木工作品、絵画、陶芸、手芸、七宝焼、造花、水彩画、水墨画、絵 手紙 演示：映画、マジック 喫茶コーナー	松林
	10月24日		展示：木工作品、絵画、陶芸、写真、七宝焼、造花、水彩画、水墨画、絵 手紙 演示：映画、大正琴、コーラス、剣詩舞、民謡、マジック、みんなで歌お う 喫茶コーナー	
第18回 白梅まつり	5月22日	550	展示のひろば：書道、陶芸、生花、手描き染め、パッチワーク、水墨画、 植物写真、木彫り、子ども創作絵画 模擬店 アニメ映画会 作ってあそぶ 野鳥なんでも相談 お茶席	白梅
	5月23日		展示のひろば 模擬店 作ってあそぶ 野鳥なんでも相談 トークサロン 影絵劇 バザー 親子ゲートボール 演示のひろば：民謡、詩吟、コーラス、社交ダンス、太極拳	

2000（平成12）年度

講座名	実施期間	人数	内容	主催
第2回 本館まつり	7月8日	1050	演示部門：オカリナ、股旅舞踊、児童合唱、草笛、新舞踊、ジャズ演奏、ひよつとこひょうたん踊り 展示部門：パッチワーク、ステンドグラス、生花、篆刻、書道、絵手紙、デコパージュ、サークル活動PR、マスコット作り体験、絵手紙体験 模擬店部門 子ども映画会	本館
	7月9日		演示部門：草笛、コーラス、社交ダンス、フラダンス、コーラス、股旅舞踊、ジャズダンス、カラオケ、リコーダー、吹奏楽 展示部門 模擬店部門 子ども映画会 広報部門	
第20回 だれでもなんでも展	10月21日	1226	展示：木工作品、絵画、陶芸、手芸、七宝焼、造花、水彩画、水墨画、折紙 演示：映画、マジック 喫茶コーナー	松林
	10月22日		展示：木工作品、絵画、陶芸、写真、七宝焼、造花、水彩画、水墨画、折紙 演示：映画、大正琴、剣詩舞、コーラス、マジック、みんなで歌おう 喫茶コーナー	
第19回 白梅まつり	5月20日	490	展示のひろば：書道、陶芸、生花、パッチワーク、水墨画、植物写真、木彫、レザークラフト、子ども創作絵画、盆栽 模擬店 アニメ映画会 作ってあそぶ	白梅
	5月21日		展示のひろば 模擬店 トークサロン バザー 作ってあそぶ 演示のひろば：大正琴、民謡、詩吟、コーラス、草笛、太極拳 お茶席	

2001（平成13）年

講座名	実施期間	人数	内容	主催
第3回 本館まつり	7月7日	950	演示部門：コーラス、フラダンス、股旅舞踊、児童合唱、草笛、新舞踊、ウクレレ 展示部門：パッチワーク、ステンドグラス、生花、篆刻、書道、絵手紙、ストーンペインティング、デコパージュ、サークル活動PR、篆刻体験、絵手紙体験 模擬店部門 子ども映画会	本館
	7月6日		演示部門：リコーダー、草笛、ひよつとこひょうたん踊り、吹奏楽、フラダンス、股旅舞踊、カラオケ、ジャズダンス 展示部門 模擬店部門 広報部門	
第21回 だれでもなんでも展	10月20日	1226	展示：木工作品、絵画、陶芸、手芸、七宝焼、造花、水彩画、水墨画、折紙 演示：映画、マジック 喫茶コーナー	松林
	10月21日		展示：木工作品、絵画、陶芸、写真、七宝焼、造花、水彩画、水墨画、折紙 演示：映画、大正琴、剣詩舞、コーラス、マジック、みんなで歌おう 喫茶コーナー	
第20回 白梅まつり	6月2日	480	展示のひろば：書道、陶芸、生花、パッチワーク、水墨画、野の花写真、花の絵、子ども創作絵画、トールペイント、盆栽、小地域福祉活動展 模擬店・バザー アニメ映画会 作ってあそぶ	白梅
	6月3日		展示のひろば 模擬店・バザー トークサロン 作ってあそぶ 演示のひろば：詩吟、民謡、民謡、コーラス、太極拳 お茶席	

2002（平成14）年

講座名	実施期間	人数	内容	主催
第4回 本館まつり	7月7日	880	演示部門：ジャズダンス、コーラス、フラダンス、股旅舞踊、児童合唱、草笛、新舞踊、ひよつとこひょうたん踊り 展示部門：パッチワーク、ステンドグラス、生花、篆刻、書道、絵手紙、ストーンペインティング、デコパージュ、サークル活動PR、篆刻体験、フラワーバスケット体験 模擬店部門 子ども映画会	本館
	7月8日		演示部門：リコーダー、草笛、吹奏楽、フラダンス、股旅舞踊、カラオケ、ジャズダンスビデオ、ウクレレ 展示部門 模擬店部門	

第22回 だれでもな んでも展	10月19日	1758	展示：陶芸、水墨画、金属工芸、七宝焼、竹細工、手芸、押し絵、書 演示：映画、マジック 喫茶コーナー	松林
	10月20日		展示：陶芸、水墨画、金属工芸、七宝焼、竹細工、手芸、押し絵、書 演示：映画、大正琴、剣詩舞、コーラス、マジック、みんなで歌おう 喫茶コーナー	
第21回 白梅まつり	6月1日	620	展示のひろば：書道、陶芸、生花、パッチワーク、花の絵、水墨画、野の 花写真、子ども創作絵画、トールペイント、藤細工、盆栽、小地域福祉 活動展、ハイキング活動展 模擬店・バザー お茶席 アニメ映画会	白梅
	6月2日		展示のひろば 模擬店・バザー 作ってあそぶ ゲート通し遊び 演示のひろば：詩吟、民踊、民謡、コーラス、太極拳、社交ダンス	

2003 (平成15) 年

講座名	実施期間	人数	内容	主催
第5回 本館まつり	7月5日	910	演示部門：草笛、カラオケ、フラダンス、コーラス、新舞踊、児童合唱 展示部門：パッチワーク、ステンドグラス、篆刻、書道、絵手紙、ストー ンペインティング、デコパージュ、フラワーバスケット、絵手紙、サー クル活動PR、篆刻体験、フラワーバスケット体験、絵手紙体験 模擬店部門 子ども遊び部門	本館
	7月6日		演示部門：演劇、リコーダー、コーラス、草笛、吹奏楽、社交ダンス、股 旅舞踊、舞踊、カラオケ、ウクレレ、ジャズダンス 展示部門 模擬店部門 子ども遊び部門	
第23回 だれでもな んでも展	10月18日	1832	展示：陶芸、水墨画、金属工芸、水彩画、油絵、竹細工、手芸、押し絵、 書 演示：映画、マジック 喫茶コーナー	松林
	10月19日		展示：陶芸、水墨画、金属工芸、水彩画、油絵、竹細工、手芸、押し絵、 書 演示：映画、大正琴、剣詩舞、コーラス、マジック、みんなで歌おう 喫茶コーナー	
第22回 白梅まつり	6月7日	802	展示のひろば：書道、陶芸、生花、パッチワーク、水墨画、花の絵、子ど も創作絵画、トールペイント、絵手紙、盆栽、俳句、小地域福祉活動展、 自然観察野外活動展 模擬店・バザー お茶席 人形劇	白梅
	6月8日		展示のひろば 模擬店・バザー やってみよう・ふれてみよう 演示のひろば：民踊、民謡、コーラス、リコーダー、囃子、太極拳	

2004 (平成16) 年度

講座名	実施期間	人数	内容	主催
第6回 本館まつり	7月3日	880	演示部門：社交ダンス、フラダンス、カラオケ、新舞踊、コーラス 展示部門：パッチワーク、篆刻、書道、デコパージュ、絵手紙、イラストマッ プ、フラワーバスケット、絵手紙体験、サークル活動PR 模擬店部門 子ども遊び部門	本館
	7月4日		演示部門：リコーダー、マジック、ひょっとこ踊り、吹奏楽、ウクレレ、草笛、 演劇、カラオケ、股旅舞踊、フラダンス、ジャズダンス 展示部門 模擬店部門 子ども遊び部門	
第23回 だれでもな んでも展	10月16日 ～17日	431	展示：篆刻、切り絵、ビーズ、七宝焼、水彩画、ステンドグラス、人形、 竹細工、造花、金属工芸 演示：マジック、大正琴、剣詩舞、コーラス 模擬店	松林
第24回 白梅まつり	6月5日	1030	展示のひろば：書道、陶芸、生花、パッチワーク、水墨画、子ども創作絵画、 トールペイント、絵手紙、盆栽、俳句、ハイキング展、福祉ボランティア展、 野の花野外写真展、ビーズ、レザークラフト、熊川分水写真展 模擬店・バザー やってみよう・ふれてみよう お茶席 人形劇	白梅
	6月6日		展示のひろば 模擬店・バザー やってみよう・ふれてみよう 演示のひろば：民踊、コーラス、大正琴、朗読、お囃子、社交ダンス、 太極拳	

2005（平成17）年度

講座名	実施期間	人数	内容	主催
第7回 本館まつり	6月11日	860	演示部門：草笛、コーラス、カラオケ、リコーダー、日本舞踊、フラダンス、手品、ウクレレ 展示部門：パッチワーク、書道、デコバージュ、絵手紙、イラストマップ、活動写真展示 模擬店部門 子ども遊び部門	本館
	6月12日		演示部門：邦楽、吹奏楽、大衆劇、ひょっとこ踊り、ウクレレ、カラオケ、フラダンス 展示部門 模擬店部門 子ども遊び部門	
第25回 だれでもなんでも展	10月15日 ～16日	431	展示：篆刻、切り絵、ビーズ、七宝焼、水彩画、陶芸、ステンドグラス、竹細工、造花、金属工芸、わらじ作り実演、書、絵本 演示：紙芝居、読み聞かせ、マジック、風船遊び、大正琴、剣詩舞、コーラス、童謡 模擬店	松林
第24回 白梅まつり	6月4日	1113	展示のひろば：書道、陶芸、生花、パッチワーク、水墨画、子ども創作絵画、トールペイント、絵手紙、盆栽、俳句、福祉ボランティア展、熊川分水写真展 模擬店・バザー やってみよう・ふれてみよう お茶席 子ども音楽ひろば	白梅
	6月5日		展示のひろば トークサロン 模擬店・バザー やってみよう・ふれてみよう 演示のひろば：民踊、コーラス、新舞踊、マジック、朗読、お囃子、社交ダンス、太極拳	

2006（平成18）年

講座名	実施期間	人数	内容	主催
第8回 本館まつり	7月8日	950	演示部門：草笛、コーラス、カラオケ、児童合唱、日本舞踊、リコーダー、フラダンス、ウクレレ 展示部門：パッチワーク、書道、デコバージュ、絵手紙、イラストマップ、フラワーバスケット 模擬店部門	本館
	7月9日		演示部門：社交ダンス、三味線、リコーダー、マジック、吹奏楽、草笛、ひょっとこ踊り、ウクレレ、カラオケ、演劇 展示部門 模擬店部門 子ども遊び部門	
第26回 だれでもなんでも展	10月21日 ～22日	723	展示：篆刻、切り絵、水彩画、陶芸、ステンドグラス、竹細工、造花、押し絵、手芸、編み物、折り紙、絵、私製本、アクリルたわし、山車、かご、ぽっくり、生花、写真、金属工芸、書、苗種プレゼント、篆刻体験 演示：マジック、映画上映、大正琴、剣詩舞、コーラス、童謡、ひょっとこ踊り 模擬店	松林
第25回 白梅まつり	6月3日	1287	展示のひろば：書道、陶芸、生花、パッチワーク、水墨画、子ども創作絵画、トールペイント、絵手紙、盆栽、俳句 模擬店・バザー やってみよう・ふれてみよう お茶席	白梅
	6月4日		展示のひろば トークサロン 模擬店・バザー やってみよう・ふれてみよう 演示のひろば：民踊、コーラス、オカリナ、マジック、朗読、お囃子、社交ダンス、太極拳	

8 公民館のつどい

公民館のつどいの10年

公民館のつどいは昭和57年7月にはじまり、平成18年度で25回を数える。年1回、公民館を利用する市民を中心に実行委員会が組織され、取り組みがなされてきた。

第1回公民館のつどいは公民館利用者の交流をめざし、イベント的なものが中心であったが、2回目以降、分科会を中心に分科会報告や交流で構成されたものが継続されている。

20周年記念誌のまとめによれば、第1回から5回（昭和61年度）までは学習や交流が混在していた時期、第6回から12回（平成5年度）は話し合いや学習会の形式を中心とした時期、第13回から第16回（平成9年度）は分科会重視、講演会の採用」という区分けをしている。それにならば20周年記念事業と同時開催の第16回とその流れの17回は学習と交流が混在しているが、それ以降、第25回（2006（平成18）年度）までは全体会+分科会中心の公民館のつどいということができる。とりわけ、分科会については、企画、運営について提案制をとり、継続した分科会テーマのもとで、年度を越えて学びを積み上げてきた。分科会の中身で広く市民にひろげてきた。このことはとても大事な視点である。

しかしながら、なぜその分科会が必要か？という論議が実行委員会の中でなかなかできていない状況があった。もちろん、一つの分科会を行うためには中心になって担う方々（それが現状では単独のサークルの場合が多い。）が必要ではある。けれども、そのことが逆に企画担当に「お任せ」になってしまい、各分科会の経過を報告しあうにとどまってしまい、サークルの枠を越えて、共に作りあげていくということが実行委員会の中で

公民館のつどいの趣旨

- 1 出会い、知り合い、交流していくために、各分野をこえた交流の場としていきたい。
- 2 公民館で活動することの意味を考えていきたい。
- 3 活動し、交流し合う中で、生活や地域の課題を共有化していきたい
- 4 つどいがひとつのきっかけになって、後に横につながりあえる場を持ち続けていきたい

できにくくなっているように見受けられる。

また、公民館3館（本館、松林、白梅）合同での分科会が16回、17回の高齢者活動、21回、22回の利用者連絡会・交流会で行われているが、23回以降その動きは出ていない。

その背景には実行委員がどのような動機で実行委員会に参加しているのかが、大きく影響しているのではないかと考える。

白梅ではつどいに関わる実行委員を利用者交流会で人選し、白梅の代表として送り込んでいるが、本館や松林の場合は各サークルの代表という位置づけで、主にサークルの活動内容や課題を分科会の企画として立ち上げ、みんなで学び合っていきたいという要求から実行委員会に参加している場合が多い。もちろんの利用者連絡会・交流会の役員は実行委員会に参加しているが、特に本館の場合は利用者連絡会の役員として、というきちんとした位置づけではない。

どのようなつどいにしていくかを3館の利用者がつながり、考えあうという方々と分科会の企画・実施を目指している方々とで、実行委員会への関わりの温度差があり、テーマ設定や分科会企

画に実行委員会の合意を積み重ねる作業がないがしろになっているような状況が散見されてきている。

30年の域を出てしまうが、第26回はどのようなつどいにしていくか、ということ徹底して話し合い、テーマ設定の議論をし、新たな市民の糾合を目指し、3館が一つのテーマのもと全体会のみという形でつどいを作り上げていった。分科会についてはサークル自主企画とし、つどいの枠内には位置づけなかった。反省会では、あらためてテーマづくりから実行委員会で課題を出し合い、議論を積み上げる作業がとても大事なことであり、分科会もテーマに沿った形で提起すること

が必要であると確認できたと思う。もちろん分科会を継続して行い、学習が積み上がることも非常に大事な視点だが、それをつどいに位置づけるかどうかは次年度の実行委員会の判断であろう。

四半世紀を経た公民館のつどいが、改めて「つどい、出会い、広がる、結ぶ」ということを考えていく時期ではないだろうか。

以下、平成9年度から18年度までの10年間で簡単に振り返ることとする。詳細については各年度の記録集を御参照されたい。

第16回公民館のつどい 1997（平成9）年9月14日（日）

*開館20周年記念事業と合わせて実施

テーマ「つどいからひろげよう 大きな輪」 実行委員長 有井節子

分科会（午前10時～正午）

テーマ	司会	事例発表者	助言者	記録
高齢者活動と公民館「新たな出会いと膨らみと、これからの高齢者活動の展開に向けて」（担当：寿市民ひろば）	前田保治 (語らいの広場) 重見通明 (熟年ひろば)	各サークル 代表	立川愛雄 (熟年ひろば)	田中清之 永井柗美 (語らいの広場)
「国際交流～本音で語るふっさ 日本 の常識・世界の常識」（担当：ゆうあいふ っさ）	秋山浩子 (ゆうあいふ っさ)			山崎笑子 (ゆうあいふっさ)
障害者と共に歩むまちづくり～まわ りから見た福生」	佐藤 幹 山下一眞 (友の会)	野口利男 (ケアサービス いずみ)		土屋真由美 (にじのはらっばス タッフ)
「女の本音で エンターテイメント パートⅠ」（担当：福生市女性問題連絡会）	石橋初子 (福生市女性問 題連絡会)		内田典子 (新座市公民館 職員)	薄田公子 (職員)
「教育問題 今、子どもたちは…」(担当: 自由の風・民主的な教育をつくる市民の会)	吉崎頼子 (自由の風・民 主的な教育をつ くる市民の会)		玉利明義 (子どもの権利 条約を進める 会)	伊藤則子 (自由の風……)
「公運審ってなあ～に」（担当：七味とう がらし）	滝沢昭子 (七味とうがら し)	中村けい子 (福生市公運審)	中野寅男 (保谷市公運審)	田中加代 (七味とうがらし)

展示「生け花、パッチワーク、公運審コーナー、囲碁コーナー」（午前10時から午後4時30分）

模擬店「スリランカカレー、ジャガイモのお焼き、レモンパイ、クッキー、バターロール、紅茶、野点」（正午から）

野外交流会「あいさつ、分科会報告会、演示（吹奏楽、フラダンス、女の本音でエンターテイメント、南京たますだれ、沖縄芸能、社交ダンス、新舞踊、コーラス、フィナーレ）（午後零時30分から4時30分）

◆実行委員会

回	日時	内容	参加者
1	5/30 (金) 19:30-	昨年度を振り返る。今年度のつどい検討。予算確認。正副実行委員長選出。実施日の決定。つどい全体構成検討・決定。アンケート実施の決定。	19名 (18団体)
2	6/17 (火) 19:30-	アンケートの結果をもとに参加団体吸い上げ。構成検討。交流会検討。他	14名 (13団体)
3	6/27 (金) 19:30-	分科会企画の提案。演示・展示希望団体吸い上げ。他	14名 (14団体)
4	7/12 (土) 19:30-	名称決定。分科会企画の提案・決定。交流会検討。手話通訳検討・決定。他	10名 (10団体)
5	7/25 (金) 19:30-	キャッチフレーズ決定。各分科会から報告。交流会検討。予算確認。他	12名 (12団体)
6	8/5 (火) 19:30-	各分科会から報告。交流会報告。手話通訳確認。招待者決定。他	12名 (13団体)
7	8/23 (土) 19:30-	分科会確認。助言者等昼食検討。交流会報告。当日の役割分担検討。手話通訳確認。他	11名 (11団体)
8	9/9 (火) 19:30-	分科会最終確認。雨天時の体制決定。役割分担確認。他	13名 (14団体)
9	9/18 (木) 19:30-	反省会（振り返り。手話通訳配置要望。文化祭との違い検討。他）	15名 (13団体)

第16回公民館のつどいは公民館開館20周年の年にあたり、開館20周年記念事業を合わせたものになっている。例年の分科会形式に加え、屋外交流会（分科会報告会、演示）、展示、模擬店等を盛大に実施している。横田基地のカーニバルと日程が重なったため、カーニバル来場者が足をとめて見入っているなど、大勢の観客でにぎわった。なお、この年度は10月から冷暖房機器の更新が予定されていた。

第17回公民館のつどい 1998（平成11）年1月10日（日）

テーマ「みんなが集う公民館 あなたも私も主人公」

実行委員長 田中加代

◇全体会（講演会） 午前10時から正午

テーマ	司会	事例発表者	話題提供者	記録
まじめに話そう～あなたと私のゴミ問題～	伊東律子		雨宮敬子	佐々木京子 井上日出夫

◇分科会 午後1時から4時

テーマ	司会	事例発表者	助言者	記録
「子どもと大人の社会」～いま、子ども達は遊んでいる？遊ばされている？子育てを見直そう～（企画：松林分館利用者交流会）	高崎文江 (シュガー)	新井有紀子 (おもちゃ箱)	園田とき (西久保保育園園長)	(おもちゃ箱・ももたろう)
わたしたちの「まなび」があぶない！（企画：七味とうがらし）	中根 浩	滝沢昭子	朝岡幸彦（東京農工大）	田中加代
高齢化社会と人間関係づくりについて（企画：公民館3館合同）	前田保治		澤田 実	永井柊子 田中清子
障害者と共に歩むまちづくり～車いすを体験してみよう！乗ってみて気づくこと、介助してみても気づくこと～	佐藤 幹 山下一真	高崎賢啓 林 美幸 鈴木聡子		本木美登里
みんなで知ろう！語ろう！「介護保険」（企画：白梅分館利用者交流会）	伊東静一 (白梅分館職員)		万沢せつ子 (医療機関職員)	細谷幸子 (白梅職員)

◇交流会「あいさつ、分科会報告、演示（太極拳、社交ダンス、コーラス、沖縄芸能、フラダンス）」

午後4時15分から5時30分

◇展示「本館利用者連絡会コーナー」（1月9日～15日） *展示マップの作成

◇体験コーナー「ステンドグラス」午前10時～正午、午後1時～3時

*クッキーづくり交流会 当日のお茶うけのため、調理室利用サークルを中心にクッキーづくりを行った。

◆実行委員会

回	日時	内容	参加者
1	7/2 (木) 19:30-	今年度のつどいについて検討。予算確認。実施日の決定。	6名 (6団体)
2	7/16 (木) 19:30-	正副実行委員長候補選出。内容の検討。	11名 (10団体)
3	8/11 (火) 19:30-	正副実行委員長選出。つどいの企画検討。アンケート実施の決定。他	10名 (10団体)
4	9/6 (日) 10:00-	アンケートをもとにキャッチフレーズ決定。ポスター募集決定。参加団体の希望集約(分科会・展示・演示)。全体会の検討	13名 (11団体)
5	9/26 (土) 19:30-	つどい全体構成の決定。各分科会から報告。演示検討。各部門連絡員の決定。手話通訳確認。	10名 (10団体)
6	10/29 (木) 19:30-	各部門(分科会・展示・全体会・演示と交流会)の報告。他	10名 (7団体)
7	11/21 (土) 19:30-	各部門(分科会・展示・全体会・交流会)から報告、招待者決定。手話通訳確認。他	9名 (8団体)
8	12/3 (木) 19:30-	ポスター決定。各部門(分科会・展示・全体会・演示・交流会)から報告。	8名 (6団体)
9	12/17 (木) 19:30-	各部門(展示・交流会・分科会)から報告、手話通訳確認。予算確認。他	9名 (9団体)
10	1/15 (金) 19:30-	反省会(振り返り。手話通訳。他)	15名 (13団体)

第17回はあらためて公民館3館(本館、松林、白梅)の利用者が出会い、集うことを確認した。各館コーナーの企画を持ち寄り、全体でアンケートをとり意見を集約しながらキャッチフレーズを作り上げた。全体会、分科会とともに展示、演示(交流を基本に)が行われた。東京都公民館研究大会の会場市を福生が担当したことから、日程を1月にずれて実施している。

第18回公民館のつどい 1999(平成11)年11月21日(日)午前9時50分から午後5時

テーマ 出会い、知り合い、学び合い 今年もおいでよ公民館へ 実行委員長 滝沢昭子

◇開会式 あいさつ 午前9時50分から10時

◇全体会 午前10時から正午

テーマ	司会	事例発表者	助言者	記録
サークルがたのしければ 公民館なんてどうでもいい。ホント!?	田中加代		島田修一 (中央大学)	伊東静一 (白梅分館職員)

◇分科会 午後1時から4時

テーマ	司会	事例発表者	助言者	記録
「あってよかった公民館」 (企画:本館利用者連絡会)	有井節子	高橋登志江 (ゆうあいふっさ) 木澤笑子 (ロミの会他) 中村幸一 (福生園芸喜楽会 他) 杉山行男 (福生アマチュア 無線クラブ)	島田修一 (中央大学)	井上日出夫 (本館職員)
みんなで聞きたい知りたい、介護保険 (企画=白梅利用者交流会)	伊東静一 (白梅分館職員)		小林昌男 (福生市介護保険 化職員)	細谷幸子 (白梅分館職員)

若い人と老人の交流・世代を越えて 一家族をとおして考えるー (企画：松林利用者交流会)	清水初代 (松林分館職員)	(コールコスモス、 ももたろう・おも ちゃ箱)	白井 慎 (東京少年少女セ ンター)	高崎文江 (シュガー)
女らしさ男らしさってなに？ー課 外授業ようこそ先輩 田嶋陽子編を 見てー (企画：ふっさ女性フォーラムをす すめる会)	石橋初子 (ふっさ女性フォー ラムをすすめる 会)		岩井美代子 (アサーティブネ ストレーター)	村田友美 (本館職員)
地方分権と市民の力 (企画：七味とうがらし)	秋山典子 (七味とうがらし)		辻 浩 (社会事業大学)	久保 淳 (本館職員)
障害者からのメッセージ～出会お う、知り合おう～ (企画：障害者と共に 歩むまちづくり分科会実行委員会)	高崎賢啓	岩尾健司、加 藤真弓、関根 範明、高崎賢 啓		佐藤克年 (本館職員)
高齢者問題「水と健康」 (企画：寿市民ひろば実行委員会)	重見通明		松井永一 (西東京雑学大 学)	田中孝治 (松林分館職員)

◇分科会報告会 午後4時20分から4時55分

◇閉会式 あいさつ 午後4時55分から午後5時

◆実行委員会

回	日時	内容	参加者
1	7/2 (金) 19:30-	つどい趣旨確認。実施日の決定。他	5名 (5団体)
2	7/11 (金) 19:30-	正副実行委員長候補選出。企画・内容の検討。他	5名
3	7/25 (日) 19:30-	正副実行委員長選出。趣旨の確認。全体会検討。前年度のアンケートを 読む。アンケート実施の決定。	9名 (8団体)
4	8/11 (水) 19:30-	アンケートをもとにテーマ・全体会テーマ決定。分科会募集を確認。ポ スターチラシ依頼。他	7名 (6団体)
5	9/15 (水) 19:30-	分科会企画の吸い上げ。全体会検討。広報検討。手話通訳確認。予算確認。	10名 (9団体)
6	10/2 (土) 19:30-	各分科会から報告。全体会検討。招待者・招待状等検討・決定。手話通 訳確認。	8名 (8団体)
7	10/21 (木) 19:30-	各分科会から報告。分科会会場決定。予算等確認。全体会検討。手話通 訳確認。役割分担検討・決定。他	13名 (12団体)
8	11/9 (火) 19:30-	各分科会から報告、全体会の検討・決定。他	7名 (5団体)
9	11/17 (水) 19:30-	分科会最終確認、手話通訳確認。役割分担確認。他	10名 (8団体)
10	12/15 (水) 19:30-	反省会(振り返り)。保育の要望。他)	8名 (7団体)

今回もアンケートを実施し、分科会、全体会の内容について意見を集約した。全体会は参加者全員が
質問に対するイエス&ノーカードを掲げ、それについての話し合いと利用者からのレポート、助言者の
まとめである。

第19回公民館のつどい 2000(平成12)年11月25日(土)午前10時から午後5時

テーマ 出会って 学んで 公民館をたのしもう 実行委員長 田中加代

◇全体会 午前10時から正午

テーマ	司会	事例発表者	助言者	記録
出会って、学んで、公民館を楽しもう	田中加代		島田修一 (中央大学)	青海伸一

◇分科会 午後1時から4時

テーマ	司会	事例発表者	助言者	記録
「あってよかった公民館パートII」 (企画：本館利用者連絡会)	有井節子	新井有紀子 (いちごクラブ) 萩原恵利子 (福生フレンドシ ップサークル) 鳥居由幸 (福生市音楽愛好 者連絡会)	島田修一 (中央大学)	井上日出夫 (本館職員)
みんなで知りたい介護保険～老いても安心して住み慣れた地域で生活するには (企画＝松林利用者交流会)	佐々木京子 (サークルシュガ ー)		渡辺良郎・小 林昌男 (福生 市介護保険課職 員)	鈴木紀美子 (松林健康体操ク ラブ)
現在のサークル活動を見直そう (企画：白梅利用者交流会)	横田理絵・柴 崎有紀 (サーク ルあんぱんまん)		奥田泰弘 (中央大学)	小暮・渋谷・ 平岡 (サークル こすもす)、片 岡 (おかし座)
わたしは誰のもの？～わたしのカラ ダはわたしのもの (企画：ふっさ女性フ ォーラムをすすめる会)	石橋初子 (ふっさ女性フ ォーラムをすすめる 会)		岩井美代子 (アサーティブネ ストレーナー)	林 美幸 (福 生女性フォーラ ムをすすめる 会)、村田友美 (本館職員)
しなやかにたくましく市民力 (企画：七味とうがらし)	中根 浩 (七味とうがらし)		話題提供 野澤久人 (福生市長)	久保 淳 (本館職員)
障害者が自力で外出できるか？ (企画：障害者と共に歩むまちづくり分科会 実行委員会)	高崎賢啓 佐藤 幹 本木美登里			百瀬友康

◇報告会 午後4時15分から5時

◆実行委員会

回	日時	内容	参加者
1	5/30 (火) 19:30-	趣旨確認。実施日決定。他	24名 (17団体)
2	6/20 (火) 19:30-	正副実行委員長選出。趣旨確認。テーマ検討・決定。企画・内容検討。他	16名 (14団体)
3	7/18 (火) 19:30-	趣旨確認。つどい全体構成の検討・決定。分科会企画の提案。他	15人 (13団体)
4	8/29 (火) 19:30-	分科会企画の提案・決定。PR検討。全体会検討。	19人 (18団体)
5	9/19 (火) 19:30-	各分科会から報告。全体会検討。手話通訳確認。他	19名 (16団体)
6	10/28 (土) 10:00-	各分科会から報告、全体会検討・決定。手話通訳確認。PR、役割分担検討。他	19名 (14団体)
7	11/18 (木) 19:30-	役割分担確認。各分科会から報告。他	9名 (6団体)
8	12/12 (火) 19:30-	反省会 (振り返り。来年度の実施を確認。日程の検討。)	12名 (11団体)

全体会は前年のイエス&ノーカード方式を継続し、グループに分かれての話し合い、助言者のまとめを行った。

第20回公民館のつどい 2001 (平成13)年11月17日 (土)

テーマ見たい 聞きたい 発言したい まちづくりの主役は私たち 実行委員長 石橋初子

◇全体会 午前10時から正午

「見たい 聞きたい 発言したい まちづくりの主役は私たち」

東京都公民館連絡協議会で作製したビデオ映画「轍（わだち）」を見た後、二つのグループに分かれて話し合いを行った。司会 滝沢昭子（七味とうがらし） 記録 久保 淳（本館職員） グループ討議の記録 鳥居由幸（福生市音楽愛好者連絡会）・秋山典子（七味とうがらし）

◇分科会 午後1時から4時

テーマ	司会	事例発表者	助言者	記録
福生七夕まつりから見えてくるまちづくり (企画：本館利用者連絡会)	中根 浩 (七味とうがらし) 大柿雅子 (福生吹奏楽団)	井上 均 (福生七夕まつり飾り付け部会) 遠藤洋一 (同模擬店部会) 渡辺浩行 (同イベント部会)	宮川 齊 (みたか市民プラン21会議)	奈良文子 (ゆうあいふっさ) 吉沢弘美 (合唱サークル) 齊藤靖子 (サークルモミ)
公民館とサークル～あなたが主役～ (企画＝松林利用者交流会)	吉岡 勇 (さつきひろば)	山口 勇 (さつきひろば) 入江富美子 (かぐや姫工房)	進藤文夫 (三多摩公民館研究所)	吉岡 勇 野村敬二 (松林分館職員)
サークル活動の成果を地域にひろげよう (企画：白梅利用者交流会)	重見通明・森田貞蔵 (熟年ひろば)	綿貫石三 (鍋一詩吟愛好会) 依田文雄 (熊川子供囃子連) 池上裕子 (みふじ会)	奥田泰弘 (中央大学)	上田勝三 (太極拳の会) 他
体験発表「私らしく生きるとは～子育ての中から見えること～」 (企画：サークルシュガー)	會田ゆき子 (サークルシュガー)	佐野里英子・内田麻由子 (サークルシュガー)	話題提供 野崎隆晴・中村利夫 (福生市環境課職員)	平賀知子・中田恵子 (サークルシュガー)
ごみ問題みんなで考えてみませんか (企画：七味とうがらし)	伊地知仁子 (日野市環境基本計画推進市民連絡会)			田中加代 (七味とうがらし) 久保 淳 (本館職員)
街のバリアフリーを調べよう (企画：バリアフリー2001)		高崎賢啓	本木美登里	百瀬友康
思い通りにならないよね、子育てって～ビデオ『母親の一人育児と育児不安・児童虐待』を見て～ (企画：ふっさ女性フォーラムをすすめる会)	石橋初子 (ふっさ女性フォーラムをすすめる会)			林 美幸 (福生女性フォーラムをすすめる会)、 村田友美 (本館職員)

◇報告会 午後4時15分から5時

◆実行委員会

回	日時	内容	参加者
1	5/29 (火) 19:30-	趣旨確認。実施日の設定。他	9名
2	7/13 (金) 19:30-	正副実行委員長候補選出。テーマの検討・決定。企画・内容検討。他	9名
3	8/30 (木) 19:30-	正副実行委員長選出。つどい全体構成決定。各分科会から報告、全体会の企画・内容検討。手話通訳確認。他	24名
4	9/29 (土) 10:00-	各分科会から報告。全体会検討・決定。他	17名
5	10/24 (水) 19:30-	分科会会場決定。全体会確認。他	17名
6	11/29 (木) 19:30-	反省会（振り返り）。来年度の実施を確認。日程の検討。	14名

第21回公民館のつどい 2002（平成15）年2月9日（日）正午～午後4時30分

テーマ 地域にかかわる公民館 実行委員長 高崎賢啓

◇分科会 正午から午後3時

テーマ	司会	事例発表者	助言者	記録
地域とかかわる公民館—公民館とわたし、みんなそして地域へ (企画：本館利用者連絡会・松林利用者交流会・白梅利用者交流会)	佐々木京子 (サークルシュガー)	西村知子(クローバー)、武井修(土俵会)、野村亮(自然環境アカデミー)	朝岡幸彦(東京農工大)	高崎賢啓(バリアフリー2001)、吉岡勇(水墨画会)、上田勝三(白梅太極拳の会)
市民の目線で「支援」をとらえてみよう～子育て支援、学習支援どこが違う？どこが同じ？～(企画：七味とうがらし、シュガー)	中根浩(七味とうがらし)	内田麻由子(ほっとひろばスタッフ)、大野真理子(シュガー)	菅井正彦(神奈川県児童医療財団小児療育相談センター)	仲平千恵子・會田ゆき子(シュガー)
性から考える生きていく大切さ (企画：本館利用者連絡会運営委員&本館利用有志)	佐藤重子(としなみ会)	海和綾子(社日本助産師会東京都支部西多摩分会)	森田玲子・塚原ひろみ・宇佐美勝代(社日本助産師会東京都支部西多摩分会)	平島貴子(綴りの会)

◇報告会 午後3時15分から4時30分

◆実行委員会

回	日時	内容	参加者
1	5/31(金) 19:30-	趣旨確認。実施日決定。つどい全体構成・内容検討。	14名
2	7/12(金) 19:30-	正副実行委員長候補選出。3館合同企画分科会検討。報告会検討。つどい全体構成検討。	9名
3	9/26(木) 19:30-	正副実行委員長選出、つどい全体構成決定。3館合同企画分科会検討。手話通訳確認。報告会検討。他	15名
4	11/28(木) 19:30-	分科会企画内容の変更確認。3館合同企画分科会検討。テーマの決定。報告会お茶の件検討。他	10名
5	1/21(水) 19:30-	全体進行確認。分科会会場決定。報告会確認。手話通訳確認。PR、案内状等確認。他	18名
6	2/26(水) 19:30-	反省会(振り返り)。参加者の事前集約の必要性。分科会会場の早期決定。来年度の実施確認。日程の決定)	16名

第22回公民館のつどい 2003(平成15)年11月30日(日)

テーマ 語ろう、学ぼう、あのこと このこと 公民館で

実行委員長 吉岡 勇

◇分科会 午後零時30分から3時15分

テーマ	司会	事例発表者	助言者	記録
公民館の現状と課題～サークル活動って「タダ」なの！～ (企画：本館利用者連絡会・松林利用者交流会・白梅利用者交流会)	伊東静一	小沢朗 (横浜市職員)	朝岡幸彦 (東京農工大)	渡辺聡子、渡部真知子、吉岡勇
高齢者を取りまく医療・介護の現状 (企画：地域福祉学習会ハートフル)	桜井奏子		萬沢せつ子(日の出ヶ丘病院ソーシャルワーカー)	森内比砂子
熊川分水の成り立ちから保全について (企画：白梅利用有志)	黒沢吉信	上田勝三	坂上洋之(玉川上水研究家)	森田和子、北山梅子
子どもを預けることを考える (企画：サークルシュガー、七味とうがらし)	田中加代	仲平千恵子	加藤有孝(元福生市公民館職員)	會田ゆき子
裁判員制度について (企画：本館利用有志)	奈良文子		解説：盛岡暉道(拝島法律事務所弁護士)	黒田輝子
「命」そこから生まれるもの (企画：命とからだのコミュニティー)	石橋初子		佐藤晴世(「人間と性」教育研究協議会多摩サークル)	平島貴子

◇報告会 午後3時30分から5時

◆実行委員会

回	日時	内容	参加者
1	6/6 (金) 19:30-	趣旨確認。実施日確認。つどい全体の構成検討・決定。	8名
2	7/16 (水8) 19:30-	正副実行委員長選出。テーマ検討・決定。分科会の検討(各館での検討をもとに。3館合同の実施決定。)。報告会検討。	14名
3	9/12 (金) 19:30-	各分科会から報告、報告会検討。手話通訳検討・確認。ポスターは事務局作成。	17名
4	10/7 (火) 19:30-	全体会確認、各分科会から報告。報告会検討・決定。分科会会場決定。招待者・案内状確認。他	12名
5	11/6 (木) 19:30-	分科会最終確認。報告会確認。手話通訳確認。役割分担検討・決定。他	14名
6	12/17 (水) 19:30-	反省会(振り返り。分科会数について。来年度の実施確認、日程の確認。)	22名

第23回公民館のつどい 2004(平成16)年11月28日(日)

テーマ 見直そうこの社会、公民館の学びから 実行委員長 森田貞蔵

◇分科会 午後零時30分から3時15分

テーマ	司会	事例発表者	助言者	記録
みんなが知っておきたい年金の基礎の基礎(企画:地域福祉学習会ハートフル)	桜井奏子		萬沢 明(社会保険労務士)	松本昌子、井上日出夫
玉川上水遊歩道を考えよう(企画:玉川上水遊歩道を考える会)	杉森 侑(玉川上水遊歩道を考える会)	話題提供:青木克己・原嶋卓也(玉川上水遊歩道を考える会)		杉森 侑
暮らしに生かそう憲法の役割とその理念(企画:福生生活と健康を守る会)	長田紀禰子	基調報告:伊崎義宏(福生憲法教室講師)		伊藤広美
熊川分水の景観と保全(企画:熊川分水に親しむ会)	黒沢吉信(熊川分水に親しむ会)		高崎勇作(福生市文化財保護審議会委員)	横田君子 森田和子(白梅分館職員)
どうなる公民館 指定管理者制度とは(企画:公運審委員)	高水清安		荒井文昭(東京都立大学)	森谷初美(松林分館職員)
メディア・リテラシー～情報を読み解く力をつけよう～(企画:本館利用者有志)	秋山典子(七味とうがらし)		新開清子(FCT市民のメディアフォーラム)	中根 浩

◇報告会 午後3時30分から5時

◆実行委員会

回	日時	内容	参加者
1	6/23(水) 19:30-	趣旨確認。正副実行委員長候補選出。つどい全体の進行方法・内容検討。他	7名
2	7/27(火) 19:30-	実行委員長の各館持ち回りを確認。副実行院長選出、テーマ検討、分科会企画の提案・決定。他	13名
3	9/8(水) 19:30-	実行委員長選出、各分科会から報告。3館合同企画検討。報告会検討。手話通訳要望。ポスター・チラシ依頼。他	11名
4	10/5(火) 19:30-	各分科会から報告、報告会検討。手話通訳確認。参加者の集約検討・実施決定。PR。他	9名
5	11/9(火) 19:30-	分科会会場決定。報告会確認。手話通訳確認。役割分担検討・確認。参加者の集約。他	12名
6	12/8(水) 19:30-	反省会(振り返り。来年度の実施確認、日程の決定。準備は8月からに。)	9名

第24回公民館のつどい 2005(平成17)年11月27日(日)

テーマ 公民館 学ぼう つけよう市民の力 実行委員長 秋山典子

◇全体会 午前10時から正午

テーマ	司会	事例発表者	助言者	記録
公民館にとって指定管理者制度ってなに? 市民にとって得なの? 損なの? ~ (企画:公運審)	高水清安 (公運審委員)		荒井俊行 (国立市公民館長)	田中加代・高崎賢啓・佐々木京子 (公運審委員)

◇分科会 午後1時から3時30分

テーマ	司会	事例発表者	助言者	記録
こんなときどうする? ~思春期の子どもはどう向き合う!? (企画:サークル彩)	林 美幸 (サークル彩)		梅田君江 (フェミニストセラピスト 「ななかま」心理カウンセラー)	平島貴子 (サークル彩)
日本国憲法と私たち (企画:福生生活と健康を守る会)	長田紀禰子		伊崎義宏 (福生生活と健康を守る会)	鈴木金吾 (西多摩憲法会議)
私たちも働きたい~知的障がい者の就労の願いをかなえるために (企画:青年学級にじのはらっぱ)	柳 正 (元青年学級にじのはらっぱ講師)	石井里果・鈴木基之・瀬川京子・東郷温 (青年学級にじのはらっぱ)、	原俊雄 (ハローワーク青梅障害者求人開拓員)、 安部省吾 (伯東株障害者職業コンサルタント)	井上日出夫 (本館職員)
終戦直後からの生活に想う (企画:白梅熟年ひろば)	松坂直人 (白梅職員)	重見通明 (熟年ひろば)	宮脇岑生 (流通経済大)	松坂直人 (白梅職員)
熊川分水の保全と景観 (企画:熊川分水に親しむ会、公民館白梅分館)	黒沢吉信		高崎勇作 (福生市文化財保護審議会委員)	上田勝三
玉川上水の現状と保全規制について学ぼう (企画:玉川上水遊歩道を考える会)	島田雅由 (玉川上水遊歩道を考える会)	情報提供:小峰勝 (福生市都市建設部都市計画課)。滝嶋肇 (都市建設部土木課)		杉森 侑 (玉川上水遊歩道を考える会)
「もったいない」を考える (白梅分館有志)	小宮みさ子		田中三代司 (福生環境市民会議「ごみ減量プロジェクト」)	北山梅子

◇報告会 午後3時45分から5時

◆実行委員会

回	日時	内容	参加者
1	8/9(火) 19:30-	趣旨確認。正副実行委員長選出。分科会企画の提案と確認。全体会の検討。つどい全体の構成検討。他	10名
2	9/6(火) 19:30-	つどい全体の構成検討・決定。テーマの検討・決定。分科会に、予算に、ポスターチラシ、	12名
3	10/4(火) 19:30-	全体会の検討・決定。各分科会から報告。報告会の検討。講師謝礼について検討・確認。手話通訳確認。PR。他	10名
4	11/9(水) 19:30-	全体会の確認。分科会会場決定。報告会の検討・確認。役割分担確認。他	9名
5	12/7(水) 19:30-	反省会(振り返り。来年度の実施確認、日程の決定)	12名

第25回公民館のつどい 2006(平成18)年11月27日(日)

テーマ 住みやすい 地域をつくろう つどいから 実行委員長 伊藤広美

◇分科会 午前10時から正午

テーマ	司会	事例発表者	助言者	記録
玉川上水をもって知ろう 上水沿いをなぜ歩けないの？ (企画：玉川上水遊歩道を考える会)	島田雅由 (玉川上水遊歩道を考える会)	西村邦康、柴崎新、小峰勝、原島貞夫、清水敬介、市川重一		杉森 侑 (玉川上水遊歩道を考える会)
自分らしく生きる～子育てとともに～ (企画：サークルシュガー)	會田ゆき子 (サークルシュガー)	濱原幸恵 (サークルシュガー)	藤村美津 (エリザベス・サンダースホーム園長)	本田麻希 (サークルシュガー)
五日市憲法に学ぶ・憲法ってなあに (企画：福生市民九条の会)	長田紀禰子		江井秀雄 (民衆思想史研究所)	鈴木金吾
どうなる地球温暖化と福生の暮らし (企画：職員)	伊東静一 (松林分館職員)		小澤祥司 (アースキッズ代表)	伊東静一 (松林分館職員)

◇全体会 午後1時から3時

テーマ	司会	事例発表者	助言者	記録
あなたの・わたしの・公民館のこと 考えてみませんか？ (企画：公運審)	高水清安 (公運審委員)		井藤鐵男 (元国立市公民館運営審議会委員)	田中加代・高崎賢啓・佐々木京子 (公運審委員)

*全体会として、あいさつ、分科会報告あり。

◇交流会 午後3時10分から4時30分

*全体会の中から討議の柱を抽出し、三つのグループに分かれて話し合いののち、各グループの報告をした。コーヒーを飲みながら懇談的に行った。

◆実行委員会

回	日時	内容	参加者
1	8/23 (水) 19:30-	趣旨確認。正副実行委員長選出。構成・内容の検討。アンケート実施の確認。他	11名
2	9/21 (木) 19:30-	アンケート結果を元にテーマ、構成・内容の検討・決定。分科会企画の提案と決定。ポスターチラシの依頼。予算確認。他	11名
3	10/11 (水) 19:30-	各分科会から報告。全体会・交流会内容検討。テーマと分科会・全体会のつながり、ポスター・チラシ決定。手話通訳の確認。他	8名
4	11/8 (水) 19:30-	交流会内容検討。分科会会場決定。各分科会から報告、全体会の報告。他	13名
	11/14 (火) 11:00-	交流会内容検討 (実行委員会とは別に実施)	4名
5	12/6 (水) 19:30-	反省会 (テーマ設定を丁寧に、テーマに基づいた分科会に、来年度の実施確認、日程の決定)	9名

手話通訳について

公民館のつどいでは全体会を中心に、手話通訳を実施している。その背景は「障害者とともに歩むまちづくりの分科会」を契機に、広く障害者の参加を保障するという視点から、聴覚障害者のための手話通訳が求められてきたことがあげられる。

公民館のつどいに手話通訳をつける動きは1994(平成6)年度第13回公民館のつどいからであった。当時の実行委員会で手話サークル「福手の会」から提案され、その年のつどいに福手の会のメンバーが活動の成果の発表という形で対応し、実現した。

翌第14回も手話サークル（福手の会、手話サークルもみじ）のメンバーで対応したが、反省会において、専門的技術をもった方に謝礼を払い、きちんと位置づけたほうが良いのではないか、という意見が出された。

第15回公民館のつどい全体会（講演会）に専門家としての手話通訳者（以下、「登録通訳者」という。）を依頼、経費についてはつどい講師謝礼の中から支出した。聴覚障害者の情報を保障するというレベルの手話通訳を手話サークルに求められても責任が負えないということから、実行委員会の論議の中で位置づけられたものである。一方、分科会については手話サークルの活動の一環という位置づけで手話通訳を行った。また、来年に向けて、登録通訳者のための予算を別枠で確保することが提案された。

以後、登録通訳者と手話サークルで役割の分担をしながら手話通訳を継続する。

第16回（1997（平成9）年度）は分科会に登録通訳者を依頼、報告会を手話サークルの活動の一環という位置づけで行った。また、毎年、つどいの内容は変わるので、毎年の実行委員会で検討することになった。前年の要望である登録通訳者謝礼の別枠確保はできていなかった。

第17回には予算に登録通訳者のための予算を別枠で確保した。

第20回（平成13年度）では手話サークル「福手の会」が参加できず。

第21回は全体会が行われず、分科会に登録通訳者をお願いした。以後、手話通訳者の会事務局を通じて登録通訳者を紹介していただき実施している。



塩津 昭次郎さん

9 男女共同参画フォーラムと公民館

福生市公民館における女性問題学習の流れは、まず、最初の10年間では公民館を拠点として自らの生活の可能性を見出し、仲間とともに活動していく場として定着させていく過程であった。これが、公民館が設置されて20年にわたるまでに、女性がより輝いて生きていけるような学習をするために内容や方法が蓄積され、女性問題の解決に向けた実践へと展開していく。

特に、1992(平成4)年から「ふっさ女性フォーラム」が開催され、これらを継続して実施していくために市民参加による組織化が図られ、実行委員会「ふっさ女性フォーラムをすすめる会」が結成されるに至っている。

基本的に、この組織は公募方式を採用し、新たな参加者の確保を目指していたが、メンバーの増加や幅広い年齢層への拡大は事業継続の過程で常に課題であった。

しかし、裏返せば、実行委員会には女性問題連絡協議会等の固定メンバーが毎年参加したことによって、彼女たち個々人に理念やフォーラムの企画・運営に関わるノウハウが蓄積され、これに公民館職員が関わっていくことによって事業の継続的実施が可能となっていたことは指摘しておかねばならない。

ところが、フォーラムの理念や企画・運営が特定の人々に集約されていく過程は、試行錯誤する過程ではダイナミックな事業展開を期待できるが、メンバーの数的拡大や多くの世代への広がりを実現できていない現実によって、厳しい表現であるが事業の限界を呈することになる。

これらはこの組織に特有の現象ではなく、創業時から守勢時への事業転換の難しさは民間企業に

においても同様に困難な課題であろう。公的な事業が法律論に基づき、事業継承そのものを前面に押し出すことによって、民間よりも早く、限界にいたるといえることがあるかもしれない。この記念誌においてこれ以上の脱線は避けよう。

結果として、公民館が設置され、30年目を迎える今日までに、このフォーラムは大きな変化、転換を迫られることになる。

その過程では女性問題連絡協議会の会員が実行委員会に参加しなくなり(一部は市に協働推進課が設置され、連携機関の転換がおこったということも指摘されている)、公民館との直接的なかわりがなくなり、フォーラムの事業継承が途切れることになった。

これによって、実行委員会を設置しても公民館職員主導で実施に至ったり、そもそも実行委員会を設置せずイベント型になったこともあった。

しかし、別の見方をすれば、福生の地理的、社会的、政治的環境が変化し、就労形態と家族構成、地域との関わり方が変化する過程の中で、人間関係が希薄化し、さらに関係を深めなくても生活していける環境が整っていったこともあり、新たな市民参加が自主的に阻害、敬遠されるという一面があったことも指摘しておかねばならない。これは公民館の事業であっても例外ではなく、それがここ10年間に表出したということもできる。

厳しい表現が許されれば、失われた10年ということもできるかもしれないが、だからこそ、この10年間でどのように総括し、次なる10年間に引き継ぐのかということにもなる。ただでさえ、市に協働推進課が設置され、同じ領域での事業を展開しており、公民館での市民の学習支援に

おける役割が問われることになるのである。

公民館設置の理念とその蓄積を念頭におけば、協働推進課が設置されて、類似する事業が展開されても、公民館は継続的に男女共同参画フォーラムを実施していくことが求められよう。

それは、まず公民館事業の蓄積によって女性問題や子育てに関心をもつ市民と直接的、継続的な関係を維持しており、これは協働推進課に限らず、市長部局においてもこのような蓄積のある機関は見当たらない。

その意味でも公民館がこれまでの10年間をいかに総括するかにかかっている。

しかし課題もある。それは初期の実行委員会や女性問題連絡協議会において新規市民の参入に課題をもっており、理念、ノウハウの蓄積過程において、参入の壁を形成していったことを念頭におけば、新規参入の仕組みを公民館としてどのように捉え、打開するかが問われることになる。

これは市全体として予算縮減の流れの中で、協働推進課との連携を模索すると共に、公民館においても若い世代での女性問題や子育ての学習を支援する講座を再編し、つなぎ合わせながら、体系的に講座を実施していくことを模索しなければならない。

これらは、これまで公民館職員が個々に任されていた事業設定（講座設定権限）を見直し、事業評価方法と個々の専門性向上にむけた研修が一緒になって展開される必要性を物語ることになる。

まさに、男女共同参画フォーラムの歴史は福生市公民館の歴史であり、限界・課題でもあることを示している。

かといって、これまで30年間の蓄積を否定し、新たな事業展開をすればよいというものではないだろう。

市民が参画し、力量形成をしていく学習およびその蓄積の過程自体は評価されるべきものであり、何を継承し、何を創造していくのかが問われ

ることになろう。

そのためには、フォーラムの事業体制（学習会）を再び復活させ、再編・活用（子育て中の女性に対して保育を導入することも検討課題の一つ）しつつ、新たな市民の参入については、例えば保育室併設講座との連結や他機関としては指定管理者が導入されているが児童館との連携や社会福祉協議会等との連携を視野に入れて、フォーラム実施のための企画・運営システムの構築が図られる必要があるだろう。

となれば、まさに31年目（30周年記念誌ではあるが）における保育室併設講座とフォーラムの連結事業を足がかりにして、新たな市民と公民館の協働を模索していくことが求められよう。

これによって“失われた10年”は、“再生のための10年”として位置づくことになるのであり、今後の10年間の事業展開こそが問われるのである。そのための“失われた10年”は“創造的破壊のための10年”であってほしいと願うばかりである。

1997（平成9）年度

ふっさ女性フォーラムをすすめる会

市民による実行委員会の中でフォーラムの内容を練り上げ、市民による運営をするために行った。

期間 5月29日～10月30日 全8回

会場 公民館本館、福社会館

参加者 延べ33人

内容 テーマ、講師、当日のすすめ方、役割分担、当日配布資料等について。女性フォーラムを振り返り、来年度へ向けて。

ふっさ女性フォーラム「みんなで支えあう介護って？—自分らしく生き抜くために—」

福生市女性行動計画「ふっさ女性プラン」をより自分たちの生活にひきつけていくために、「男女が共に担う介護の推進」の項をテーマに、女性問題の視点で高齢者介護の問題を考え直す場として実施した。

日時 8月2日（土）午後1時30分～4時30分

場所 市民会館小ホール

参加者 83人

内容 講演会

講師 沖藤典子氏（ノンフィクション作家）

ふっさ女性フォーラムを考える会

フォーラムの記録作成を中心に、来年度の女性フォーラムをどのようなものにしていくかを考える場として実施した。

期間 11月26日～1998年3月3日 全7回

会場 福社会館、公民館松林分館

参加者 延べ20人

内容 女性フォーラムの記録作成、来年度以降の女性フォーラムについて

女性問題パネル展パートⅠ

「ジェンダーフリー その新しい生き方」

期間 4月3日（金）～4月6日（日）

場所 公民館本館展示室

参加者 延べ50人

女性問題パネル展パートⅡ

「仕事を拓いた女性たち」

期間 4月24日（木）～27日（日）

場所 公民館本館展示室

参加者 延べ50人

1998（平成10）年度

ふっさ女性フォーラムをすすめる会

市民参加の準備会を行うことにより、市民のニーズ・地域の課題を明確にし、女性問題の認識をより深め、さらに多くの市民に広げることを目指した。

期間 5月21日～1999年3月26日 全22回

会場 公民館本館

参加者 延べ197人

内容 フォーラムのテーマ、当日の形態、寸劇、学習会、講師依頼、台本、ポスター・チラシ等について。フォーラムを振り返り、来年度へ向けて。

ふっさ女性フォーラム

「常識ってなに！？—ことばの中にひそむ、無意識な差別を見直そう！—」

「ことば」をテーマに芝居と講演を通し、私たちの身近にあることばを改めて女性問題の視点から考え直す機会とした。

日時 1999（平成11）年2月20日（土）

午後1時～4時

場所 市民会館小ホール

参加者 89人

内容 芝居と講演

講師 中村桃子氏（関東学院大学）

協力 劇団SHAKE HIP

女性問題パネル展「ことばに見る女性」

期間 1999年2月18日(木)～25日(木)

会場 公民館本館展示室

参加者 延べ200人

1999(平成11)年度

ふっさ女性フォーラムをすすめる会

ふっさ女性フォーラムの実施に向けて、仲間と共に学び合い、地域の課題を解決するための力を育てあえるような場になることを目的に実施した。

期間 6月24日～2000年1月7日 全15回

場所 公民館本館

参加者 延べ56人

内容 フォーラムのテーマ、内容、役割分担、図書館への要望等。フォーラムを振り返り、学習会について

ふっさ女性フォーラム

「こころの居場所～わたしがわたしであるために～」

日時 12月11日(土)午後2時～4時

場所 市民会館小ホール

参加者 342人

内容 来場者に講演前に質問に答えてもらい身近な女性問題に気づき、引き続き講演を行った。

講師 落合恵子氏(作家)

ふっさ女性フォーラムパネル展

「イラストで読む北京行動綱領」

2000年6月にニューヨークで開催される『女性2000年会議ー21世紀に向けての男女平等・開発・平和ー』に向けて、採択後5年を経過した北京行動綱領の内容を日本の女性に引きつけ、わかりやすく展示した。

期間 11月18日(木)～28日(日)

場所 公民館本館展示室、市民会館小ホールロ

ビー

参加者 延べ440人

2000(平成12)年

ふっさ女性フォーラムをすすめる会

期間 4月11日～2001年3月6日

場所 公民館本館

参加者 延べ58人

内容 フォーラムのテーマ、内容、公民館のつどい参加、役割分担等について。フォーラムの反省と来年度へ向けて、学習会について

ふっさ女性フォーラム「わたしは誰のもの? ～自分らしい生き方を求めて～」

性別に関係なく一人の人間として尊重され、対等な立場であらゆる活動に共に参画できる男女共同参画社会へ向け、その理解を深める機会として実施した。

日時 12月9日(土)午後2時～4時

場所 市民会館小ホール

参加者 207人

内容 来場者に講演前に質問に答えてもらい身近な女性問題に気づき、引き続き講演を行った。

講師 中山千夏氏(作家)

ふっさ女性フォーラムパネル展

「社会のすみずみまで男女平等を～男女共同参画社会基本法21世紀への旅立ち～」

男女共同参画社会の理解を深めるための展示を実施した。

期間 12月5日(火)～16日(土)

場所 公民館本館展示室

参加者 延べ320人

2001（平成13）年

ふっさ女性フォーラムをすすめる会

期間 4月17日～2002年2月9日 全12

回

場所 公民館本館

参加者 延べ60人

内容 フォーラムのテーマ、内容、名称変更検討、公民館のつどい等について

反省会（アンケート集約、課題、来年度へ向けて）

男女共同参画週間 第10回ふっさ女と男のフォーラムをすすめる会学習会「女性が元気になる！ シネマ&トーク『アントニア』」

男女共同参画週間の意義を広く市民に広め、理解を深める機会として実施した。

日時 6月26日（火）午後7時～9時30分

場所 公民館本館

参加者 12人

内容 女性監督による女性の生き方、女性問題をテーマとした映画「アントニオ」を視聴。

講師 松本侑壬子氏（映画評論家）

第10回ふっさ女と男のフォーラム「思い通りにならないよね、子育てって～幼児虐待の背景にひそむもの～」

日時 2002年2月9日午後1時30分～4時

場所 市民会館小ホール

参加者 151人

内容 てい談と質疑応答

講師 大日向雅美氏（恵泉女学園大学）

石坂 啓氏（マンガ家）

汐見稔幸氏（東京大学）

ふっさ女と男のフォーラムパネル展

「リプロダクティブヘルス・ライツ」

リプロダクティブヘルス・ライツ（特に女性の

健康を自己決定する権利）を理解するために、わかりやすいパネル展示を行う。

期間 2002年2月1日（金）～9日（土）

会場 公民館本館展示室

参加者 延べ250人

2002（平成14）年度

ふっさ女と男のフォーラムをすすめる会

期間 4月16日～2003年2月1日 全19回

場所 公民館本館

参加者 延べ67人

内容 フォーラムの内容、保育室、すすめる会への男性の参加、秋の学習会「私たちの望むワークシェアリング等について。

秋の学習会を振り返り、女性問題講座のプログラム、フォーラムの反省等について

第11回ふっさ女と男のフォーラム「これからの女と男の働き方～雇用の流動化の中で～」

女性も男性も自分らしく働くにはどうすればいいのかを講演を通して考え合う。

日時 2003年2月1日（土）午後2時～4時

場所 市民会館小ホール

参加者 163人

内容 女性が働くとき、家事や子育て、介護等の性別役割分業を乗り越えるために、男の働き方もふくめ、どうあるべきかを講演を通して考え合う。

講師 上野千鶴子氏（東京大学）

2003（平成15）年度

ふっさ女と男のフォーラムをすすめる会

期間 5月17日～2004年1月27日 全17回

場所 公民館本館、松林分館

参加者 延べ80人

内容 フォーラムのテーマ、内容、保育、子ど

もの学習会、事前学習会等について。学習会を振り返り、反省会。

ふっさ女と男のフォーラム

「自分らしさが大事～子どもが輝く学校って～」

男女共同参画社会の実現を目指し、自分らしく生きるには何が大切なのかを考え合う。

日時 12月20日(土)午後2時～

場所 市民会館小ホール

参加者 延べ76人

内容 3人のパネリストそれぞれの立場から自分らしく生きるために大切なことは何か、また子ども達に学校、家庭の中でどのような言葉かけをしていくべきかを考えあう。

パネリスト 河野貴代美氏(お茶の水女子大学)、深澤純子氏(ヒューマンサービスセンター)、宮崎留美子氏(公立高校教諭)

2004(平成16)年度

第13回ふっさ女と男のフォーラムをすすめる会

今年度はすすめる会への申込みが一人しかなく、その方も第1回実行委員会に参加したところで辞退したため、事務局で準備をすすめた。

日時 7月24日(土)午後1時30分～3時

場所 公民館本館

参加者 1人

第13回ふっさ女と男のフォーラム

「仲良くしようよ 男と女」

日時 12月5日(日)午後2時～

場所 市民会館小ホール

参加者 43人

内容 男女の共存を柱に、講師の体験を通し、男女がお互いを尊重し合い、生きていくか考えあう。

講師 木村治美氏(エッセイスト)、角田四郎氏(フリージャーナリスト)

今回、フォーラムでは初めて託児を行い、幼い子どもを持つ女性の参加を考慮した。

託児 2人

2005(平成17)年度

ふっさ女と男のフォーラム

「お互いの自立と尊重を目指して」

女性の経済的自立、男性の生活の自立等を身近な場面を通して考え合う。

日時 2006(平成18)年1月29日(日)午後2時～4時

場所 さくら会館3階ホール

参加者 54人

内容 男女共同参画社会から老若男女共同参画社会へという広がりを視野に、社会や地域、家庭での差別や偏見をどう解決していくか考えあう。

講師 松村真貴子氏

今年度も実行委員を公募したが、申込者がいなかったため事務局で企画・準備・運営を行った。

2006(平成18)年度

第15回ふっさ男女共同参画フォーラム実行委員会

身近な生活の中から疑問を出し合い、課題を共有し、フォーラムに向けての企画をすすめた。実行委員には幼い子どもを育てる方子育てに関わる方が集まった。

期間 6月8日～11月13日 全10回

場所 公民館白梅分館、福祉センター保育室、扶桑会館他

参加者 延べ64人

内容 フォーラムのタイトル、内容、託児、ボンディング等について

フォーラムの振り返りと来年度に向けて

第15回男女共同参画フォーラム

「親子の絆 見つめ直してみませんか？」

大切な命を育み、家庭生活を営むことが男と女の共同作業であることを確認し、性差を越えて同じ人間であることを認め合うこと、また親子を取り巻く人々のふれあいと絆作りが豊かな生活に結びつくことを確かめあった。

日時 10月28日(土) 午前9時50分～午後
0時30分

場所 公民館第4・5集会室

参加者 45人

シンポジスト 森田玲子氏(森田助産院)、角
田四郎氏(ノンフィクションライター)、福
生市職員2名

司会 秋山典子氏



名取 雅江さん

10 学習支援・サークル援助

公民館講師派遣援助事業

公民館では公民館を利用する団体が、学習を深め、新たな市民の広がりを目指すために公開で行なう学習会・講演会等を、必要な講師を派遣するために、その講師料の一部を援助する講師派遣援助事業を実施している。

この10年間の実績は別表のとおりである。

なお、巻末資料に、案内文書を掲載した。

万葉のロマンの世界～花・人・衣～朗誦（2002.9.7）

1997（平成9）年度

講座・講演会名	実施日	人数	講師名	サークル名
	8月30日	15	内藤和美氏	女性学サークルもくせい
「七宝焼講習会」	9月3日	20	井上喜久子氏	七宝焼サークル
	11月24日	20	本多雅忠氏	福手の会
	2月10日	6	志摩江津子氏	あじさいOB会
「どうなる公民館！」	2月21日	11	長澤成次氏	七味とうがらし

1998（平成10）年度

講座・講演会名	実施日	人数	講師名	サークル名
「女らしさ男らしさは学校でつくられる？」	9月12日	20	森本エリ子氏	女性学サークルもくせい
「木工&ペイント」	2月16日	20	小椋直子氏	あじさいOB会
「リトミック」	3月4日	32	鹿戸裕子氏 蔦川尚子氏	サークルポップコーン
	3月24日	7	奥津とし子氏	七味とうがらし

1999（平成11）年度

講座・講演会名	実施日	人数	講師名	サークル名
「みんなが楽しい家庭科の授業を！」	9月18日	18	鈴木宏明氏	女性学サークルもくせい
「手話を学ぶということ」	10月23日	60	石原茂樹氏	手話サークルもみじ
「マジック教室」	11月13日	8	和田茂利氏	福生アマチュアマジッククラブ
	1月22日	38	佐久間久子氏	おかし座
	2月23日	13	新堀敏男氏	七味とうがらし
	2月24日	50	鹿戸裕子氏 蔦川尚子氏	サークルポップコーン

2000（平成12）年度

講座・講演会名	実施日	人数	講師名	サークル名
	1月21日	32	入佐さと子氏	福手の会
	2月17日	54	田中清氏	手話サークルもみじ

	3月1日	54	鹿戸裕子氏 蔦川尚子氏	サークルポップコーン
	3月24日	9	大和田一紘氏	七味とうがらし

2001（平成13）年度

講座・講演会名	実施日	人数	講師名	サークル名
「ひょっとこ踊りにトライ」	8月11日	35	尾作映江氏	福生ひょっとこひょうたん連
	9月29日	11	飯田和子氏	七味とうがらし
「みなさん子育てしやすいですか？」	3月16日	27	藤原千賀氏	クローバー

2002（平成14）年度

講座・講演会名	実施日	人数	講師名	サークル名
「万葉のロマンの世界～花・人・衣～朗誦」	9月7日	58	小澤よし氏	まほろばの会
「PTA何年生ですか PTAを☆倍楽しむ方法」	9月21日	7	前橋弘子氏	綴りの会
「絵手紙を始めませんか」	3月25日	36	石場眞智子氏	ふっさ絵手紙の会

2003（平成15）年度

講座・講演会名	実施日	人数	講師名	サークル名
「子どもたちが自分らしく生きるためには？」	9月11日	36	深澤純子氏	クローバー
「一日合唱を体験してみよう」	9月20日	26	高橋逸子氏 小田切洋子氏	福生児童合唱団フレンズ
「盲ろう者の理解のために」	10月18日	40	多幸勇二氏	福手の会
「親子で楽しくリトミックしませんか」	2月26日	43	鹿戸裕子氏 蔦川尚子氏	サークルポップコーン
「社会全体の育児力低下の深刻な現状と課題」	2月29日	37	今キヨ子氏	地域福祉学習会ハートフル

2004（平成16）年度

講座・講演会名	実施日	人数	講師名	サークル名
「玉川上水遊歩道について考えよう」	7月17日	41	保坂吉則氏	玉川上水遊歩道を考える会
「古典の世界から『語りと音楽』を楽しみませんか」	12月5日	37	和田克子氏	まほろばの会
「日常できる健康づくり」	2月6日	36	内田貴士氏	福手の会
「高齢者虐待の課題と展望」	3月19日	32	中村雪枝氏	地域福祉学習会ハートフル

2005（平成17）年度

講座・講演会名	実施日	人数	講師名	サークル名
「心に浮かぶ思いをエッセイにつづってみませんか」	平10月26日	18	白田洋子氏	エッセイクラブ白梅
「私もひとりで暮らせる」	11月12日	80	松浦幸子氏	FHMの会
「たましろの郷を知ろう！」	2月5日	30	花田克彦氏	福手の会
「アニメの見方を変えてみよう！！」	2月14日	10	新開清子氏	クローバー

2006（平成18）年度

講座・講演会名	実施日	人数	講師名	サークル名
「音読をして脳の活性化に役立てよう」	7月20日	50	平井任子氏	朗読の会どんぐり
「障害者自立支援法って」	1月28日	50	菅井真氏	地域福祉学習会ハートフル
「輝きたい私～子育て中の私を見つめる」	3月15日	22	辻智子氏	サークルシュガー
「聞こえない人たちの運動と福祉」	3月31日	30	本多忠雅氏	福手の会

大小ホール借上援助事業

公民館では公民館を利用する社会教育団体がその活動の成果を発表し、もって市民の学習・文化活動の発展に寄与するため、市民会館大小ホール借上援助を行なっている。

この10年の借上援助事業を利用した活動は別

表のとおりである。

この制度は団体の申請に基づき、来年度予算要求をし、予算の範囲内で援助するものである。

事務等の取り扱い要領は巻末資料に掲載した。

1997（平成9）年度

サークル名（催し物名）	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会（第15回市民音楽祭）	6月29日		大ホール
邦楽同好会（第5回ゆかたざらい）	8月17日		小ホール
コール福生21（ファーストコンサート）	8月30日		小ホール

1998（平成10）年度

サークル名（催し物名）	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会（第16回市民音楽祭）	6月21日		大ホール
福生吹奏楽団（第1回定期演奏会）	11月22日		大ホール
福生児童合唱団フレンズ（第5回定期発表会）	3月7日		大ホール
福手の会（創立20周年記念講演会「共に生きる力」）	9月15日		小ホール
福生演芸喜楽会（旗揚げ公演「情けの捕縄」）	9月27日		小ホール

1999（平成11）年度

サークル名（催し物名）	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会（第17回市民音楽祭）	6月20日	1,018	大ホール
福生演芸喜楽会（第2回公演「親恋唄来太郎格子」）	10月3日	260	小ホール
福生児童合唱団フレンズ（第6回定期発表会）	3月4日	200	小ホール
コール福生21（第2回コンサート）	3月26日	180	小ホール

2000（平成12）年度

サークル名（催し物名）	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会（第18回市民音楽祭）	6月18日	857	大ホール
福生演芸喜楽会（第3回公演）	10月15日	260	小ホール
福生吹奏楽団（第3回定期演奏会）	11月23日	550	大ホール
福生児童合唱団フレンズ（第7回定期発表会）	3月11日	150	小ホール

2001（平成13）年度

サークル名（催し物名）	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会（第19回市民音楽祭）	6月16日	830	大ホール
福生吹奏楽団（第4回定期演奏会）	11月22日	750	大ホール
福生児童合唱団フレンズ（第8回定期発表会）	3月10日	210	小ホール

2002（平成14）年度

サークル名（催し物名）	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会（第20回市民音楽祭）	6月18日	830	大ホール
福生吹奏楽団（第5回定期演奏会）	11月23日	750	大ホール
福生児童合唱団フレンズ（第9回定期発表会）	3月10日	200	小ホール

2003（平成15）年度

サークル名（催し物名）	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会（第21回市民音楽祭）	6月15日	600	大ホール
福生吹奏楽団（第6回定期演奏会）	11月23日	580	大ホール

2004（平成16）年度

サークル名（催し物名）	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会（第22回市民音楽祭）	6月20日	550	大ホール
福生吹奏楽団（第7回定期演奏会）	11月20日	470	大ホール
福生児童合唱団フレンズ（第10回定期発表会）	3月27日	230	小ホール

2005（平成17）年度

サークル名（催し物名）	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会（第23回市民音楽祭）	6月18日	750	大ホール
福生吹奏楽団（第8回定期演奏会）	3月19日	515	大ホール
福生児童合唱団フレンズ（第11回定期発表会）	3月25日	200	小ホール

2006（平成18）年度

サークル名（催し物名）	実施月日	人数	会場
福生市音楽者愛好者連絡会（第24回市民音楽祭）	6月18日	800	大ホール
福生吹奏楽団（第9回定期演奏会）	11月26日	470	大ホール
福生児童合唱団フレンズ（第12回定期発表会）	3月25日	230	小ホール

学習相談、事務的援助等

公民館では求めに応じて、市民の学習相談に随時対応するとともに制度として社会教育用備品の貸し出し、印刷援助等を行なっている。

社会教育用備品の貸し出しについては、近年のDVD等新しいメディアの普及に伴い、液晶プロジェクターの利用が増加しているが、16ミリ映写機等についてはほとんど貸し出しがない状況である。

東京都では多摩社会教育会館がフィルム配送サービスと取りやめ、続いてフィルムライブラリーを日比谷図書館に統合した。その後2004（平成16）年8月末をもって「東京都16ミリ発声映写機等取扱要綱」を廃止した。これに伴い、今まで講習修了を義務づけてきた16ミリ映写機の操作については修了要件を不問とし、また映写機の検定についてもその根拠をなくしてしまった。

そのため福生市公民館として新たに映写機検定の要綱を策定し、継続しているが、操作講習につ

いては実施を取りやめ、映写機の操作が必要な方の要求には練習会という形で対応することとした。

現在、公立のフィルムライブラリーは日比谷図書館視聴覚係にある。他市では独自にフィルムライブラリーを持っているところもあるが、その対応はまちまちである。

印刷援助については2005（平成17）年度まではサークルや市内の公共的団体に無償（用紙は利用者が持ち込み）で印刷機の提供を行ってきたが、市全体の印刷機等の取り扱いについて統一的な規則を設けたため、2008（平成18）年度より実費相当額の使用料（製版・インク代）をいただくこととなった。

使用料については次の通りである。

- ・製版代 1枚につき40円
- ・インク代 50枚までごとに25円
- ・紙代 備付けの用紙を使用した場合、1枚につき3円